

1997年度

免許課程シラバス

獨協大学

目 次

[] 内は1992年度以前入学者の科目名

教職課程（教職に関する科目）

教育原論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	〔教育原論〕	鳥谷部 志乃恵	1
		川 村 肇	3
教職心理学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	〔教職のための心理学〕	瀧 本 孝 雄	5
		鈴 木 乙 史	7
		横 田 雅 弘	9
生涯教育論（司書科目「社会教育」と合併）	〔生涯教育論〕	渋谷 英 章	11
学校教育論	〔学校教育論〕	川 村 肇	13
教育法規	〔教育法規〕	渋谷 英 章	15
教育方法学	〔教育方法の理論と応用〕	町 田 喜 義	17
		林 潔	19
ドイツ語科教育法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	〔ドイツ語科教育法〕	山 中 康 子	21
英語科教育法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	〔英語科教育法〕	秋 山 武 夫	23
		清 水 由 理 子	25
		三 好 健	27
		J. J. DUGGAN	29
フランス語科教育法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	〔フランス語科教育法〕	小 石 悟	31
社会科教育法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	〔社会科教育法〕	小 川 一 郎	33
地理・歴史科教育法	〔地理・歴史科教育法〕	犬 井 正	35
		古 川 堅 治	37
公民科教育法Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	〔公民科教育法〕	小 川 一 郎	39
道徳教育の研究	〔道徳教育の研究〕	鳥谷部 志乃恵	41
		川 村 肇	43
特別活動	〔特別活動〕	川 村 肇	45
		佐 藤 利 明	47
生徒指導法	〔生徒指導法〕	鳥谷部 志乃恵	49
		川 村 肇	51
		福 島 哲 夫	53
教育実習Ⅰ	〔教育実習Ⅰ〕	鳥谷部 志乃恵	55
（教育実習の事前・事後指導）	（教育実習の事前・事後指導）	佐 藤 利 明	57
		小 川 一 郎	59

教職課程（教科に関する科目）

日本史概説	〔日本史概説〕	新井孝重	61
外国史概説Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	〔東洋史概説〕	熊谷哲也	63
外国史概説Ⅲ（前期）・Ⅳ（後期）	〔西洋史概説〕	久慈栄志	65
地理学概説	〔地理学概説〕	山本充	67
地誌学概説Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）	〔地誌学概説〕	山本充	69
地理学調査法	〔地理学調査法〕	犬井正	71
社会学概論	〔社会学概論〕	山本正三	
哲学概説	〔哲学概説〕	有吉広介	73
倫理学概論	〔倫理学概論〕	河口伸	75
宗教学概論	〔宗教学概論〕	中島文夫	77
		鈴木康治	79

司書・司書教諭課程

図書館通論	稲村徹元	81
図書館資料論	根本彰	83
参考調査論	稲村徹元	85
資料目録法	松山巖	87
資料分類法	緑川信之	89
図書館活動論	宮部頼子	91
青少年の読書と資料	宮部頼子	93
図書及び図書館史	根本彰	95
社会教育（教職科目「生涯教育論」と合併）	渋谷英章	11
視聴覚教育	町田喜義	97
学校図書館通論	宮部頼子	99
学校図書館の利用指導	宮部頼子	101

科目名	教育原論Ⅰ・Ⅱ（教育原論）	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-----	---------------	------	---------

講義の目標	<p>ドイツの哲学者カントは「人間は教育を必要とする唯一の被造物である」と説いた。教育原論Ⅰは教育哲学の視点から人間と教育の本質的な関係を考察し、教育の本質や目的についての理解を深めることを目指したい。</p> <p>教育原論Ⅱは、教育の本質や目的についての理解を前提として、意図的教育である学校教育の基礎的知識を形成するために、教育内容と教育方法についての理解を深めることを目指したい。</p>	
講義概要	<p>教育原論Ⅰは、人間の生成、人間の生成と遺伝や環境の関係を考察し、教育の可能性と必然性について考える。また教育における目的の意義、社会が求める教育目的、法規や行政文書における教育目的などを考察し、教育における目的と実践の関係について考える。</p> <p>教育原論Ⅱは、教育内容や教育方法についての理解を深め、授業とは何かについて考える。</p>	
使用教材	テキスト	・名倉英三編『新制教育原論』八千代出版
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・A.ポルトマン著『人間はどこまで動物か』岩波新書 ・ランゲフェルド著『教育と人間の省察』玉川大学出版
評価方法	定期試験によって評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	I—(1) 人間の基本的な性質、被造物性について
2	(2) 子どもと親（大人）について
3	(3) 人生のライフサイクルの中での人間形成について
4	(4) 遺伝（素質）説における教育について
5	(5) 環境（経験）説における教育について
6	(6) 遺伝と環境の相互的關係について
7	(7) 社会生活と人間形成について
8	II—(1) 教育の理想と理念について
9	(2) わが国の教育目的について
10	(3) 教育目的の諸要因（社会・文化・子ども）について
11	(4) 学校における教育の目的・目標の設定について
12	(5) 目的意識に基づく実践としての教育行為について
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	I—(1) 教育内容の意味について
2	(2) 教育内容の選択について
3	(3) 教育内容の組織について
4	(4) わが国の教育課程
5	(5) 教育課程の展開
6	II—(1) 教育方法とは何かについて
7	(2) 学習指導の原理について
8	(3) 学習活動の形態と過程について
9	(4) 学習指導理論の歴史
10	(5) 学級集団の組織と運営について
11	(6) 学級観の変遷と教育方法の改革について
12	(7) 情報化社会と教育方法
備考	

科目名	教育原論Ⅰ・Ⅱ（教育原論）	担当者名	川村 肇
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>Ⅰにおいては、教育を考える時に不可欠な人間観を扱う。その理解の上に立って、教育基本法、子どもの権利条約などの解説を通して教育に不可欠な観点を理解する。</p> <p>Ⅱにおいては、日本の教育の歴史を扱う。現代教育の様々な問題を解明してゆく上で、歴史的検討を加えることは不可欠である。これを通じて現代教育を深く理解する。</p>		
講義概要	<p>Ⅰにおいては、障害を二重にもって生まれた赤ちゃんの具体的事例をとりあげ、人間観、障害観をグループで討議する。その上に立って、教育基本法、子どもの権利条約の理解を深め、どのようにこれを実行に移してゆくかを考察する。</p> <p>Ⅱにおいては、江戸時代以降の日本の教育の歴史を講義し、余裕があれば、参加者による調査発表などもとり入れたい。</p>		
使用教材	テキスト	ポケット版『子どもの権利ノート』（市販されていないので講義中に注文をうける）	
	参考文献	堀尾輝久『日本の教育』（東大出版） 〃 『教育入門』（岩波新書） 〃 『教育基本法はどこへ』（有斐閣新書） 『子どもの権利条約 実践ハンドブック』（労働旬報社） 大田堯『戦後日本教育史』（岩波書店） 寺崎他『近代日本教育の記録』（全3巻、NHK出版）	
評価方法	試験による。ただしもちこみは自由。出席も考慮する。		
受講者に対する要望など	参考文献は随時読了してゆくこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の進め方の説明 本学で教員免許状がどうして取得できるのか——戦後教育改革の側面——
2	人間観と教育(1)——障害をもった赤ちゃん——
3	" (2)——障害をもって生きる辛さ——
4	" (3)——障害をもって生きる強さ——
5	" (4)——障害のもつ人類的意味——
6	" (5)——人間はどうして尊いのか——
7	ヒトから人へ——生命の発達と人間の本質を考える——
8	日本国憲法、教育基本法、子どもの権利条約(1)——教育を受ける権利から教育への権利へ——
9	" (2)——子どもの権利と子どもの人権——
10	" (3)——教育の義務と教師の教育権——
11	" (4)——子どもの参加と自治——
12	試験
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期試験講評と後期の進め方について説明
2	江戸時代の教育——ふたつの教養・ふたつの教育——
3	近代学校の成立
4	大正新教育(1)——「児童中心主義」の教育——
5	" (2)——生活綴方教育——
6	戦争と教育
7	戦後教育改革(1)——米国教育使節団報告と教育刷新委員会——
8	" (2)——『学習指導要領(試案)』とコア・カリキュラム運動——
9	「逆コース」の教育(1)——教育委員会をめぐって——
10	" (2)——「勤評」・「学テ」——
11	現代教育のもつ問題点とその改善のために
12	試験
備考	

科目名	教職心理学Ⅰ・Ⅱ（教職のための心理学）	担当者名	瀧本孝雄
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>〔教職心理学Ⅰ〕では教職に必要な心理学的な基本問題について講義する。前半では主に教育心理学およびカウンセリングと心理テストについて、後半では主に青年心理学の領域について考察する。</p> <p>〔教職心理学Ⅱ〕では〔教職心理学Ⅰ〕をふまえたうえで、その応用的な側面について考察する。さらに、カウンセリングの各種のトレーニングを実施し、人間理解、生徒理解を深める。</p>	
講義概要	<p>〔教職心理学Ⅰ〕</p> <p>①教育心理学の対象と方法、②カウンセリングの目的と方法、③心理テストの理論と実施、④学習・知能、⑤記憶・思考、⑥教育の評価と測定、⑦教師の資質とリーダーシップ、⑧青年心理学の対象と方法、⑨青年期の意義と特徴などについて講義する。</p> <p>〔教職心理学Ⅱ〕</p> <p>①現代青年の特徴、②青少年国際比較調査結果の概要、③現代青年の悩み、④青年期の人間関係、⑤生徒の問題行動、⑥生徒の精神衛生、⑦性差心理学などについて講義する。またグループ討議やカウンセリングの実習なども実施する。</p>	
使用教材	テキスト	『カウンセリングと心理テスト』林潔著 ブレーン出版
	参考文献	
評価方法	評価方法は講義に関しての小テストとレポートとする。出欠席は毎回とる。	
受講者に対する要望など	〔教職のための心理学〕は通年授業である。〔教職心理学Ⅰ〕は前期授業で必修であり、〔教職心理学Ⅱ〕は後期授業で選択であるが、〔教職心理学Ⅱ〕も受講することが望ましい。（教員志望者大歓迎）	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	教育心理学の対象と方法 教育心理学とは何か、教育心理学で扱う問題について講義する。
2	カウンセリングと生徒相談の目的 教育におけるカウンセリングと生徒相談の意義について考察する。
3	カウンセリングの方法 カウンセリングの方法について具体的な例をもとに講義する。
4	クライアント中心のカウンセリング クライアント中心のカウンセリングの目的と方法について講義し、基本的な実習を行う。
5	心理テストの理論 心理テストの中で、知能テスト、性格テストの理論と種類について講義する。
6	心理テストの実施 性格テストを実際に実施し、自己理解を深める。
7	学習・知能について 教育における学習・知能の意義とその役割について講義する。
8	記憶・思考について 教育における記憶・思考についてその意義と役割について講義する。
9	教育の評価と測定 教育評価の意義とその問題点を具体的事例をもとに講義する。
10	教師の資質とリーダーシップ 望ましい教師のあり方、教師の資質について検討する。
11	青年心理学の対象と方法 青年心理学とは何か、青年心理学で扱う問題について講義する。
12	青年期の意義と特徴 人生サイクルの中での青年期の意義とその特徴について講義する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	現代青年の特徴(1) 現代青年が以前の青年と比べてどのような特徴があるかを考察する。
2	現代青年の特徴(2) 同 上
3	青少年国際比較調査結果 世界11ヶ国の青年の中で日本の青年の特徴について概説する。
4	現代青年の悩み 現代青年の悩みを構造的に理解する。
5	青年期の人間関係 青年期の友人関係、親子関係、恋愛、性の諸問題について検討する。
6	生徒の問題行動 非行、いじめ、登校拒否など現在学校で問題になっている行動について講義する。
7	生徒の精神衛生 神経症、精神病、自殺などについて考察する。
8	性差心理学(1) 男性と女性の身体的・精神的な差異について考察する。
9	性差心理学(2) 同 上
10	グループ討議 現在の中学、高校での諸問題についてグループに分かれて討議する。
11	カウンセリング実習(1) カウンセリングの基本的実習を行う。
12	カウンセリング実習(2) カウンセリングの各種の技法についての実習を行う。
備考	

科目名	教職心理学Ⅰ・Ⅱ（教職のための心理学）	担当者名	鈴木乙史
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>教職に就く者として、児童・生徒の理解は欠かすことのできないことである。教職心理学Ⅰにおいては、発達のプロセス、学習のメカニズム、知能の構造、そして教授者—学習者間の関係とダイナミズムについての基礎的知識の獲得と理解をめざす。</p> <p>Ⅱにおいては、臨床的側面に焦点をあて、生徒指導の方法、カウンセリングの方法などを学び、実習を含めて習得していく。</p>	
講義概要	<p>Ⅰに関しては主として講義を中心とする。</p> <p>Ⅱに関しては、実習を含め多くの課題を与え、単なる知識だけでなく基礎的方法の習得をめざしている。</p>	
使用教材	テキスト	特になし。
	参考文献	講義の中で指示する。
評価方法	<p>Ⅰに関してはテストによる。</p> <p>Ⅱに関しては出席、課題の達成度、レポートの評価でおこなう。</p>	
受講者に対する要望など	<p>Ⅱに関しては、数多くの課題があるので、きちんと出席し課題をやりとげる覚悟のある学生のみ参加してほしい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション どのようなテーマの講義をしていくか、その概略を述べる。
2	発達① 気質・愛着の形成について。
3	発達② 野生児研究、マターナル・ディプリベーション研究について述べる。
4	発達③ 自己コントロール、自律性について述べる。実習を行う。
5	発達④ 自己意識と自我同一性について述べる。実習を行う。
6	学習① 無学性行動と学習性行動について。学習のメカニズムを論じる。
7	学習② 条件づけやモデリングについて。動機づけのメカニズムについてもあわせて論じる。
8	知能① 古典的な知識観について論じる。
9	知能② 新しい知能観について論じる。
10	教授－学習過程について論じる。特に、ATI研究から処遇の重要性について理解を深める。
11	日米共同研究の基に、アメリカの学生と日本の学生の共通性と差異点を検討し、日本の問題を明らかにする。
12	まとめ：全体について、質問や自由ディスカッションをする機会としたい。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：どのようなテーマをどのような方法で進めるかを説明する。同時に学生が各自満たすべき課題を説明する。
2	精神障害の基礎① 児童期・青年期に好発する精神障害について。
3	精神障害の基礎② 神経症のタイプとメカニズムについて。
4	精神障害の基礎③ 摂食障害と心身症について。
5	精神障害の基礎④ 不登校といじめについて。
6	自己理解のために① 適応－不適応について。
7	自己理解のために② 性格と性格テスト。
8	自己理解のために③ 「日常会話の意識化」。
9	コミュニケーションについて、マス・コミュニケーションとパーソナル・コミュニケーションの特質を理解する。
10	カウンセリングの基礎① 聞き方について。
11	カウンセリングの基礎② 紙上応答トレーニング。
12	まとめ：以上についての質問と自由なディスカッションの機会としたい。
備考	

科目名	教職心理学Ⅰ・Ⅱ（教職のための心理学）	担当者名	横田雅弘
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>①前期に開講する教職心理学Ⅰでは、実際に教職についたときに役立つ実践的知識ならびに教職試験に必要な知識の概略を身につける。</p> <p>②後期に開講する教職心理学Ⅱでは、自分を知るということを目標にする。すなわち、教職につく者としての自分のパーソナリティー、考え方、行動の傾向を理解し、その理解の上に、自分がどのような教育者になろうとするのかを考える。</p>	
講義概要	<p>教職心理学Ⅰは、講義中心の授業である。しかし、教職についたときに必要である心理学の知識を、このような短期間の授業で網羅することは不可能である。そこで、ここでは主に人間関係にポイントを絞り、子供の社会性の発達や青年の心理、あるいは学校不適應の問題などを扱う。できるだけ実践的な知識をケースなどを使って講義したい。</p> <p>教職心理学Ⅱでは、講義は最小限にとどめ、学生が自己分析にチャレンジする。特に初等・中等教育の教師は子供達と全人格的に交わるのであり、そのときに自分が教師としての自分の強みや弱みを理解していることは大変重要である。授業は、ゲーム、心理テスト、ディスカッション等を中心に展開する。</p>	
使用教材	テキスト	プリントを配布する。
	参考文献	教職試験の準備のために、この授業でカバーしきれないところを整理しておく必要がある。たとえば、「教育に生かす心理学」伊藤康児他、北大路書房など。
評価方法	<p>教職心理学Ⅰは、①授業への出席、②最後の授業時間を用いて行う試験を中心に評価する。</p> <p>教職心理学Ⅱは、①授業への出席、②最後の授業時間に提出してもらうレポート、③授業への貢献（ディスカッションへの積極的参加等）を中心に評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>①教職心理学Ⅱの受講者は、教職心理学Ⅰを履習していることが望ましい。</p> <p>②教職心理学Ⅱは、自己分析という大きな課題にチャレンジする積極性が求められる。ディスカッションにも積極的に参加して頂きたい。</p> <p>③教職心理学Ⅰ、Ⅱともきちんと出席することが不可欠である。</p>	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（教職心理学Ⅰ、Ⅱについて）。発達と教育(1)：発達観と教育、知能の発達と創造性、認知的発達、道徳性の発達。
2	発達と教育(2)：引続き上記のテーマについて学ぶ。
3	人間関係と社会性の発達(1)：親の養育態度と子供のパーソナリティ。
4	人間関係と社会性の発達(2)：学級集団のダイナミクス（友人関係、教師生徒関係、リーダーシップなど）。
5	学習指導と教育評価(1)：学習理論、学習指導法、動機づけ、教育評価。
6	学習指導と教育評価(2)：引続き上記のテーマについて学ぶ。
7	青年期の身体成熟とセクシャリティ：性的成熟の身体的・心理的側面、性と社会、学校における性・エイズ教育。
8	青年期の心理特性
9	学校不適応と精神衛生(1)：登校拒否、校内暴力、いじめなど。
10	学校不適応と精神衛生(2)：カウンセリングの基礎知識。
11	前期末テスト
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	自己紹介のセッション
2	自分に気づく(1)：自分の心理テストの結果を交流分析理論を通して解析する。そのための交流分析の基礎を学ぶ。
3	自分に気づく(2)：引続き上記のテーマについて学ぶ。
4	自分に気づく(3)：引続き上記のテーマについて学ぶ。
5	他人と状況に気づく(1)：スモール・グループでの学習（ただし受講者の人数によっては変更する場合有り）
6	他人と状況に気づく(2)：引続き上記のテーマについて学ぶ。
7	ゲームを用いて、異文化状況における自分を理解する。
8	教師としての自分の強みと弱みを分析する(1)。
9	教師としての自分の強みと弱みを分析する(2)。
10	教師としての自分の強みと弱みを分析する(3)。
11	補講
12	まとめ。レポート提出。
備考	

科目名	生涯教育論	担当者名	渋谷英章
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>「生涯学習社会」は、現在ではあたりまえの言葉となっているが、ともすれば「学校を終えた人々に十分な学習機会が提供されれば生涯学習社会は完成する」という表面的で一面的な理解にとどまることが多い。この授業では、学校教育と社会教育をともに変革して両者の統合を図ることこそが、生涯学習社会の基本的な課題であるという視点から、生涯学習社会における学校教育と社会教育のあり方について追求する。</p>	
講義概要	<p>まず、現在「生涯学習社会」が求められる背景と生涯教育の理念を検討する。そのうえで、生涯学習社会における学校のあり方を現在の日本の教育改革の動向に基づいて考察し、次に生涯各期の社会教育の課題を明確にする。さらに、諸外国の事例との比較を通して、日本の生涯教育の現状と課題を分析する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・真野宮雄編『生涯学習体系論』東京書籍 ・日本生涯教育学会編『生涯学習事典』東京書籍 ・倉内史郎・碓井正久編著『新社会教育』学文社
評価方法	<p>評価は、試験の成績をもとに出席状況を加味して行う。「何を学んだか」という知識の量よりも、「いかに学ぶか」という学び方が問われるべきである生涯教育の原則から、試験にはこの原則にふさわしい問題を課し、ノートや各種の文献などの持参を認める。</p>	
受講者に対する要望など	<p>授業への出席が必要条件であるが、出席してもただ単に板書を写すだけでは不十分である。講義内容を十分に理解するように努め、さらにその内容について自分自身で考えることが重要である。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	なぜ、いま「生涯学習社会」か
2	生涯教育の理念とその社会的背景(1)——ラングランの生涯教育論
3	生涯教育の理念とその社会的背景(2)——「脱学校論」の学校批判
4	生涯教育と学校(1)——「生きる力」、「学校週5日制」と生涯教育
5	生涯教育と学校(2)——学社融合・連携、高等学校改革と生涯教育
6	生涯教育と学校(3)——大学改革と生涯教育
7	生涯教育とライフ・サイクル(1)——幼児期、少年期の教育
8	生涯教育とライフ・サイクル(2)——青年期、成人期の教育
9	生涯教育とライフ・サイクル(3)——高齢期の教育、女性の生涯教育
10	諸外国の生涯教育(1)——リカレント教育、有給教育休暇制度
11	諸外国の生涯教育(2)——ノンフォーマル教育、識字教育
12	試験
備考	

科目名	学校教育論	担当者名	川村 肇
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>学校とはどのような場であるのか。このことを、既成の概念を検討の俎上にものせながら、根本から考え直すことを目標とする。私たちと私たちの社会の中にある学校観を問い直し、これを通じて現代学校の改善の方策を探ってゆきたい。</p>	
講義概要	<p>東京シュール等のフリースクール、あるいはフリースペースの夜間中学など、現代学校に対してつきつけられている様々な動きを紹介し、不登校の事例を通じて、学校の何が問題とされているかを考える。ビデオを見たり、不登校児の親の会の人、フリースペースを主催している人などをお呼びしてお話を伺う。この問題についてのインタビューをレポートにして提出することも求める。最後に、政策としてうたがされている「学校スリム化」について考える。全時通じてグループによる討議が主体となる。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・奥地圭子『学校は必要か』(NHK ブックス) ・竹内常一『学校ってなあに』(青木書店) ・『講座 学校』(全7巻、柏書房) ・里美実『学校を非学校化する』(太郎次郎社)
評価方法	<p>試験および提出レポートによる。ただしもちこみ等は自由。出席も考慮する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>教育基本法や「子どもの権利条約」などは事前に学習しておくこと。外部から講義に協力してくれる人が参加する場合は、特に全員出席のこと。</p>	

科目名	教育法規	担当者名	渋谷英章
-----	------	------	------

講義の目標	<p>教育法規の意義とその構造を理解し、教員としての職務の遂行にあたって、必要に応じて法的な裏付けとなる規定を自ら確認できるような知識と能力を身につけさせる。</p>		
講義概要	<p>はじめに、受講生がこれまでの学校生活で体験した事象がいかなる法的規定にもとづいていたのかを具体的に示し、教育法規を学ぶ意義を示す。その後で、憲法、教育基本法、学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、教育公務員特例法などの法規定を検討することによって、教育法体系の構造と教育法の特殊性を具体的に検証していく。いかなる法規定が定められているかということよりも、なぜそのような法規定が存在するのかという問題に重点を置き、単なる条文の解釈にとどまらず、教育学の理論的背景を確認しつつ各法律の条文を考察していく。</p>		
使用教材	テキスト	『教育小六法』 学陽書房	
	参考文献	教育制度研究会編『要説 教育制度（全訂版）』 学術図書出版社	
評価方法	<p>評価は、試験の成績をもとに出席状況を加味して行う。試験では、条文を暗記しているかどうかではなく、法規定や条文の意味を正しく理解しているかを問うため、教科書、ノート、教育六法を持参して、それらを参照しながら回答することになる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業への出席が必要条件であるが、出席してもただ単に板書を写すだけでは不十分である。講義内容を十分に理解するよう努め、さらにその内容について自分自身で考えることが重要である。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	身近な教育事象の裏付けとして、どのように法的な規定が定められているのかを示し、教育法規を学ぶ意義について考える。
2	教育法の法体系およびその原則について考察する。
3	憲法の教育条項および教育基本法による規定について考察する。
4	教育基本法の規定とその規定の根源にある公教育原理について考察する。
5	学校教育法について考察する。
6	学校教育法について考察する。
7	地方教育行政の組織及び運営に関する法律について考察する。
8	地方教育行政の組織及び運営に関する法律について考察する。
9	教育公務員特例法について考察する。
10	社会教育法について考察する。
11	現在の教育問題と教育法について考察する。
12	試験
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	教育方法学（教育方法の理論と応用）	担当者名	町田喜義
-----	-------------------	------	------

講義の目標	<p>各種メディアの驚異的な発達により我々を取りまくコミュニケーション状況は大きく変化している。それに伴い教育もまたいろいろな意味で激動期を迎えている。本講義は、「教育の方法と技術」をコミュニケーションの視点から再検討する事を目的とする。</p>		
講義概要	<p>人間の人生は、(1)日常の様々な直接経験、(2)本、TV、映画などによる間接経験、そして③言語による理性的経験を通しての成長過程であると言える。本講義では、先ずこの三つの経験システムをどの様に教育過程で生かすかを考えてみよう。第二に、「教育コミュニケーション」という概念を導入して、『教育の技術と方法』を通じて『教師の役割』を再検討してみよう。諸君の多くは近い将来、生徒を対象に先の過程の一端を担う事になる。生徒たちは諸君（先生）を通して多くの事柄を学んで行くだろうが、「どのように教えるか」は、「何を教えるか」と同様に重要な教育の課題である。これには「諸君が教師として何を学ぶ必要があるか」、「学んだ結果として諸君がどう変わるか」が関わっているからである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>プリント、ビデオ、その他を使用する。</p>	
	参考文献	<p>野津良夫編『視聴覚教育の新しい展開〔第二版〕』東信堂 1995 佐伯 胖『わかり方の根源』 1990 小学館 吉田彰宏『学ぶと教える—授業の現象学への道—』海鳴社 1987 稲垣忠彦・柴田義松・吉田彰宏『教育の原理Ⅱ—教師の仕事—』東大出版 1985 多田俊文編『教育の方法と技術』学芸図書 1994 佐藤 学『教育方法学』岩波書店 1996 若林繁太『教師よ！』共同出版 昭和59年 林 竹二『学ぶということ』国土社 1978 その他（別紙配布する）</p>	
評価方法	<p>課題レポート：40%（提出遅れは認めない） letter grade（A：90、B：80、C：70、D：60、E：50、各‘+’点は5点） 定期試験：45%（5問出題×9点） 出席回数：15%（欠席1回につき2点減点—やむを得ず欠席した場合は証明書を提出する事、遅刻は1点減）</p>		
受講者に対する要望など	<p>OHPの教材作成講習会に参加すること。</p>		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	プロローグ： {本コースの趣旨} 説明、グループ編成について（班編成リスト配布—自己紹介）、その他
2	ビデオ：『若き教師たちへ』授業とは？ 教えることとは？ ※課題レポート(1)：「林竹二について」（400字詰原稿用紙B—5版・横書、4—5枚）
3	グループ内・間意見交換(1)：『若き教師たちへ』を観て
4	ビデオ：「人間らしさ」、本当の授業とは？
5	講義：「教育方法学のイメージ」—コミュニケーションの観点から
6	講義：教育のコミュニケーション分析 「学習状況、教師、生徒、学習情報、メディア、テスト、学習効果、評価、フィードバック」
7	講義：視聴覚コミュニケーション「メディアによる教育の変遷・課題」 E. デールの理論『経験の円錐』
8	ビデオ：『超高層ビルはなぜ倒れないのか』教育メディアの利用と実践
9	グループ内・間意見交換(2)：『超高層ビルはなぜ倒れないのか』を観て
10	講義：授業過程における教育メディアの選択「特性・処遇・課題交互作用 (TTTT)」
11	講義：教育における指導と改善「授業設計」 学習と指導の評価「評価と測定」
12	エピローグ：グループ内・間意見交換(3)『テストについて』
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	プロローグ： {本コースの趣旨} 説明、グループ編成について（班編成リスト配布—自己紹介）、その他
2	ビデオ：『若き教師たちへ』授業とは？ 教えることとは？ ※課題レポート(1)：「林竹二について」（400字詰原稿用紙B—5版・横書、4—5枚）
3	グループ内・間意見交換(1)：『若き教師たちへ』を観て
4	ビデオ：「人間らしさ」、本当の授業とは？
5	講義：「教育方法学のイメージ」—コミュニケーションの観点から
6	講義：教育のコミュニケーション分析 「学習状況、教師、生徒、学習情報、メディア、テスト、学習効果、評価、フィードバック」
7	講義：視聴覚コミュニケーション「メディアによる教育の変遷・課題」 E. デールの理論『経験の円錐』
8	ビデオ：『超高層ビルはなぜ倒れないのか』教育メディアの利用と実践
9	グループ内・間意見交換(2)：『超高層ビルはなぜ倒れないのか』を観て
10	講義：授業過程における教育メディアの選択「特性・処遇・課題交互作用 (TTTT)」
11	講義：教育における指導と改善「授業設計」 学習と指導の評価「評価と測定」
12	エピローグ・グループ内・間意見交換(3)：『テストについて』
備考	

科目名	教育方法学（教育方法の理論と応用）	担当者名	林 潔
-----	-------------------	------	-----

講義の目標	<p>最近の教育方法の動向について紹介します。</p> <p>特に生徒との対人関係の中で、生徒のもつ学習上、行動上の問題にどう対応するかという点を一つの焦点としました。</p>	
講義概要	<p>教育活動は対人コミュニケーションの様式と考えられます。そこでまずコミュニケーションとその課題をとり上げます。</p> <p>学習活動の前提の一つが、いわゆるやる気です。そこで次に動機づけについて考えます。間に学会動向をはさんでみました。そして教育方法についての具体的テーマをとりあげます。</p> <p>後半は教育集団における教師の役割、教育調査、教育評価について紹介します。もし時間が許せば、教育機器の利用についても紹介したいと思います。</p>	
使用教材	テキスト	なし。
	参考文献	随時紹介します。
評価方法	<p>期末試験を主とします。レポート、平常点を考慮する場合があります。</p>	
受講者に対する要望など	<p>授業内容について、積極的に質問をして下さい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序および教育活動とコミュニケーション：授業への導入。および教育活動を対人コミュニケーションの様式とみなし、対人コミュニケーションの問題と課題について考えます。
2	動機づけ(1) 動機づけ、特に達成動機の理論を紹介します。
3	動機づけ(2) 同 上
4	日本教育心理学会の報告より：最近の日本教育心理学会の報告を紹介し、教育活動の方法論について考えます。
5	生徒の問題への対応(1)：生徒の学習上の問題への対応として、学習技能のアプローチについて紹介します。
6	生徒の問題への対応(2)：生徒の行動上の問題への対応として、認知的アプローチについて紹介します。
7	印象に残った授業について 学生諸君がよかったと思った授業、その特色について検討します。
8	一斉授業と集団的アプローチ 一斉授業の長所・短所とあわせ、集団討議の方法についてとりあげます。
9	リーダーとしての教師の機能 教師を教室におけるリーダーとして位置づけ、PM理論に基づきその役割について考えます。
10	教育調査(1) 行動観察、質問紙、面接といった教育調査の実際についてとりあげます。
11	教育調査(2) 同 上
12	教育評価 教育評価の意義・種類・方法について紹介します。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	内容は前期と同じです。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	ドイツ語科教育法Ⅰ・Ⅱ（ドイツ語科教育法）	担当者名	山中康子
-----	-----------------------	------	------

講義の目標	<p>英語の他にはじめて他の外国語を学ぶ生徒に新しい言語に興味を持続的に持ちつづけることができるように授業をしてゆくにはどうすれば良いかを考えてゆく。</p> <p>前期には入門用の教科書を用いて模擬授業をしてゆく。</p>	
講義概要	<p>いくつかの授業方法をのべて学生の各自の経験と比較し、意見を交わしてゆく。</p>	
使用教材	テキスト	<p>“Buntes Deutsch” 東洋出版</p>
	参考文献	
評価方法	<p>定期試験による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>模擬授業の感想を毎回提出してもらおう。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本における外国語教育の歴史について。
2	ドイツ語教育はどのように行われているか。
3	グループにわける。受講者の数によるが2-4名で一つのグループ。教科書の選び方について。
4	模擬授業(1) (前もって計画案をみせること)
5	模擬授業(2)
6	模擬授業(3)
7	模擬授業(4)
8	模擬授業(5)
9	模擬授業(6)
10	模擬授業(7)
11	今までの模擬授業についての意見の交換
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	独作文の練習 (文法知識確認のため)
2	小テスト
3	独文法
4	独作文
5	小テスト
6	独文法
7	独作文
8	小テスト
9	独文法
10	独作文
11	小テスト
12	
備考	

科目名	英語科教育法Ⅰ・Ⅱ（英語科教育法）	担当者名	秋山 武夫
-----	-------------------	------	-------

講義の目標	英語を教えるとはどういうことなのか、英語教師はどうあるべきか、理想の英語教育はどうあるべきかなどを、出来るだけ現場をふまえて考えていきます。	
講義概要	<p>「英語科教育法Ⅰ」では、理論を主として授業のありかたを概説し、評価の方法、教案の作り方等を講義します。</p> <p>「英語科教育法Ⅱ」は、Ⅰを受講した人、またはしている人を対象として、その人たちが実技、つまり実際に授業を行う時間です。教育実習、教員採用試験に役立つ講義にするつもりです。</p> <p>Ⅰ、Ⅱの両方を受講することが望ましい講義です。</p>	
使用教材	テキスト	「英語教育学概論」（金星堂）
	参考文献	その都度指定する。
評価方法	この講座は「職業に関する科目」と言えますので、出席を重視します。2回欠席したら、評価Aは出しません。遅刻2回は欠席1回とみなします。	
受講者に対する要望など	現代の日本の英語教育界には、若い有能な教師が必要です。鋭意、実力を養い、実際に教員になって、新風を吹きこむ気概を持って受講してほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論。英語教育のあるべき理想について語ります。
2	過去の日本において行なわれていた、さまざまな教育法、歴史を述べます。
3	パーマーの教育法について。
4	パーマーの教育法について。
5	フリースの教育法について。
6	フリースの教育法について。
7	フリースの教育法について。
8	外人教師とのチーム授業について。
9	測定と評価。
10	教案の作り方（中学）。
11	教案の作り方（高校）。
12	Video による授業の研究。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論。授業の進め方について。
2	Video による授業研究。
3	中学の授業実習（中1、中2、中3）。
4	同上。
5	同上。
6	同上。
7	同上。
8	同上。
9	高校の授業実習（高1、高2、高3）。
10	同上。
11	同上。
12	同上。
備考	

科目名	英語科教育法Ⅰ・Ⅱ（英語科教育法）	担当者名	清水 由理子
-----	-------------------	------	--------

講義の目標	日本や海外の言語教育における考え方の変遷を学びながら、これからの英語教育について考える。特に日本の英語教育では、どのような問題を抱えており、それに対してどのような改善策があるか探してみる。	
講義概要	Ⅰ〔前期〕では、講義やビデオによる授業研究をとおして、語学教育に関する基本的な考え方を紹介する。 Ⅱ〔後期〕では、受講者の研究発表をもとに、討論を中心に進める。 内容については、講義予定表を参照。	
使用教材	テキスト	特に定めない。
	参考文献	塩澤利雄他著（1993）『新英語教育の展開』 英潮社 伊藤健三他著（1995）『英語の新しい学習指導』 リーベル出版 畑中考實、久松豊（1996）『最新英語科教育法』 成美堂 個々のテーマに関する参考書のリストは、前期のはじめに配布する。
評価方法	〔Ⅰ〕（前期）：レポート（教材研究）および期末試験による。 〔Ⅱ〕（後期）：平常点、レポート（指導案）および期末試験による。	
受講者に対する要望など	後期は、受講者の積極的な参加が望まれるので、それだけの心構えを持って受講してほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義内容とレポート課題（教材研究）について 英語教育に望まれること
2	日本における英語教育—変遷と現状—
3	主要な教授法の特徴（1） Oral Method, GDM
4	" （2） Oral Approach
5	" （3） Communicative Approach
6	" （4） Others
7	Audio Visual Aids（1）
8	Audio Visual Aids（2）
9	Testing and Evaluation（1）
10	Testing and Evaluation（2）
11	Teaching Plan（1）
12	Teaching Plan（2）
備考	レポートの提出期限は、前期の最後の授業時とする。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の進め方とレポート課題について 「文法」の指導について
2	研究発表（1）「文法」の指導方法
3	「聞くこと」と「話すこと」の指導について
4	研究発表（2）「聞くこと」と「話すこと」の指導方法
5	「読むこと」と「書くこと」の指導について
6	研究発表（3）「読むこと」の指導方法
7	研究発表（4）模擬実習
8	研究発表（5） "
9	研究発表（6） "
10	研究発表（7） "
11	研究発表（8） "
12	まとめ
備考	レポートの提出期限は、1998年1月最後の授業時とする。

科目名	英語科教育法Ⅰ・Ⅱ（英語科教育法）	担当者名	三好 健
-----	-------------------	------	------

講義の目標	<p>一言でいえば、立派な英語教員になってもらうための授業である。立派な英語教員となるための必要最小限度の知識と心構えについて述べたい。とくに英語教育を、単なる技術教育としてでなく、人間教育の観点から考察することを強調し、教育者としての英語教員像を理解してもらうのが、最大の目標である。</p> <p>Ⅱ（後期）では英語教室の現場で役立つ実践的な技術を身につけてもらう。</p>	
講義概要	<p>Ⅰ（前期）では、英語教育の意義から始めて、英語教育の歴史や各種の教授法を概観し、英語教育の目的を論じ、なお教室における学校文法の扱い方と指導案の書き方にも触れる。</p> <p>Ⅱ（後期）では、高校用英語読本を使って、受講生全員に教材研究を兼ねた授業の実演をやってもらう。</p> <p>総論的なⅠの延長としてⅡに進むので、一方のみの受講では、どうしても不十分と言わざるを得ない。受講者はぜひⅠとⅡを続けて受けてもらいたい。</p>	
使用教材	テキスト	Ⅱ（後期）で高校用英語読本を使う。
	参考文献	随時授業中に説明する。
評価方法	Ⅰ（前期）は出席状況とレポートと定期試験により、Ⅱ（後期）は授業の演習とレポートと定期試験により評価する。	
受講者に対する要望など	<p>真剣に英語教員になる意志をもった諸君に受講してもらいたい。ⅠとⅡを必ず合わせてとること。遅刻・欠席を趣味とする学生はお引きとり願うことはもちろんである。なお受講希望者は、第1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション——今後の講義予定を説明し、英語教育の意味を考えてもらう。受講希望者に名前を届けてもらって名簿を作製する。
2	[外国における語学教育の歴史と各種教授法] その1——中世 (Grammar-Translation Method) からルネサンス。
3	[同上] その2——ルネサンスから19世紀。
4	[同上] その3——19世紀以後の各種教授法。
5	[日本の英語教育の歴史] その1——幕末時代 (蘭学から英学へ)。
6	[同上] その2——明治時代。
7	[同上] その3——大正から昭和へ。
8	[同上] その4——戦後の昭和から現代へ。
9	[英語教育の目的] その1——外国語を学ぶ意義 (実用目的と教養目的)。
10	[同上] その2——英語学習の意義 (英語の重要性は国際性にあるのか?)。
11	[学校文法の扱い方と教育指導案の書き方] ——実地における学校文法の役割を説明し、指導案の実例を示して書き方を教える。
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション——今後の授業の進め方を説明し、学生による授業演習の意義と目標を述べると共に、演習のしかたを具体的に例示する。
2	[学生による授業演習とその講評] ——学生一人ひとりに演習をやると同時に指導案を提出してもらう。
3	[同上 (その2)] ——同上。
4	[同上 (その3)] ——同上。
5	[同上 (その4)] ——同上。
6	[同上 (その5)] ——同上。
7	[同上 (その6)] ——同上。
8	[同上 (その7)] ——同上。
9	[同上 (その8)] ——同上。
10	[同上 (その9)] ——同上。
11	[演習のまとめ] ——授業演習の総評。
12	[講義のまとめ] ——英語教員の理想像を考察する。
備考	

科目名	英語科教育法 I・II (英語科教育法)	担当者名	J. J. DUGGAN
-----	----------------------	------	--------------

講義の目標	<p>The purpose of this course is to not just introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach), but also to establish a basis of understanding of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based, and upon which the student will be able to build and develop a coherent plan of instruction.</p>	
講義概要	<p>In this course, we shall spend most of the first term in reading, lecture, and discussion of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based. The second term will be devoted to practical teaching based on the material covered in the first term, and incorporating practical teaching techniques that will be covered in reading and lecture.</p>	
使用教材	テキスト	<p>Hubbard, P. et. al. <i>A Training Course for TEFL</i>. Oxford University Press. Underwood, M. <i>Effective Class Management</i>. Longman.</p>
	参考文献	
評価方法	<p>Grades will be assessed based on in-class participation (and therefore attendance), assignments, presentations and a final paper.</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course description and explanation. Assignment.
2	Theme: <i>The role of the teacher</i> . Discussion. Longman text pp. 7~18.
3	Theme: <i>The influence of the teaching situation</i> . Lecture. Discussion. Longman text pp. 19~24.
4	Theme: <i>The aspect of the classroom</i> . Lecture. Discussion. Longman text pp. 25~57.
5	Theme: <i>The relationship of teacher, classroom and situation</i> . Lecture. Discussion. Assignment.
6	Theme: <i>Considering "Why?" —Approach</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp. 30~38.
7	Theme: <i>Considering "How?" —Traditional Methods</i> . Lecture. Discussion. Handouts.
8	Theme: <i>Considering "How?" —New Methods</i> . Lecture. Discussion. Handouts. Oxford text pp. 241~253.
9	Theme: <i>Considering "What?" —Technique</i> . Lecture. Discussion.
10	Theme: <i>Planning a Syllabus</i> . Lecture. Discussion. Handouts. Longman text pp. 58-79.
11	Theme: <i>Planning a Syllabus</i> . Lecture. Discussion. Assignment.
12	First term summary & review. Assessment.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Second term course description and set-up. Review of first term material.
2	Theme: <i>Traditional Teaching Techniques</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp. 3~30.
3	Theme: <i>Teaching Reading & Vocabulary</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp. 41~61.
4	Theme: <i>Teaching Reading & Vocabulary, part 2</i> . Presentations. Discussion.
5	Theme: <i>Teaching Writing & Composition</i> . Lecture. Discussion. Oxford text. pp. 61~79.
6	Theme: <i>Teaching Writing & Composition, part 2</i> . Presentations. Discussion.
7	Theme: <i>Teaching Listening</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp. 79~95.
8	Theme: <i>Teaching Listening, part 2</i> . Presentation. Discussion.
9	Theme: <i>Teaching Oral Communication</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp. 198~205.
10	Theme: <i>Teaching Oral Communication, part 2</i> . Presentations. Discussion.
11	Theme: <i>Teaching Oral Communication & Pronunciation</i> . Lecture. Discussion. Oxford text pp. 207~239.
12	Second term summary & review.
備考	

科目名	フランス語科教育法Ⅰ・Ⅱ（フランス語科教育法）	担当者名	小石 悟
-----	-------------------------	------	------

講義の目標	フランス語教授法の基礎を身につける。		
講義概要	中学・高校でフランス語を教えるために必要な教授法の様々な分野を概観する。（詳細は講義予定を参照）		
使用教材	テキスト	特になし。 プリントを用意します。	
	参考文献	中村啓佑・長谷川富子『フランス語をどのように教えるか』 駿ヶ台出版社	
評価方法	出席、授業への参加態度、レポート。		
受講者に対する要望など	フランス語の先生になるのですから、ある程度のフランス語の能力があることを前提とします。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	méthodologie (様々な教授法、言語学との関係)
2	同 上
3	actes de parole
4	différents phases de classe
5	analyse de méthodes (japonaises)
6	analyse de méthodes (françaises)
7	exercices
8	同 上
9	documents authentiques
10	animation de classe
11	同 上
12	同 上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	simulation globale
2	同 上
3	同 上
4	phonétique / compréhension orale
5	同 上
6	correction / estimation
7	observation de classe
8	教案作成
9	同上
10	模擬授業
11	"
12	"
備考	

科 目 名	社会科教育法Ⅰ・Ⅱ（社会科教育法）	担当者名	小 川 一 郎
-------	-------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>社会科は、現在、小学校3年から中学校2年まで実施されている。ここで取り扱うのは、中学校対象の社会科教育法である。</p> <p>社会科を、その特質から理解し、社会に要請されている現代的課題を把握するようし、社会科の目標、内容に対応した教育方法を創意工夫し、社会科の実践的指導力を身に付ける。</p>				
講 義 概 要	<p>戦後、出発当時の初期社会科の特質を先ず認識させる。また、その後の社会科の変容を、学習指導要領の変遷を追いながら理解させる。</p> <p>さらに、現代の社会科は、新しい学力観によって、生徒の関心、意欲、態度が重視されるので、指導方法を創意、工夫しなければならない。地理的内容、歴史的内容、公民的内容に対応した教育方法がとれるように講座を進めたい。</p> <p>特に、後期はディベート、模擬授業など行うなどして、授業の実践的指導力を身につけさせるようにする。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・文部省『中学校指導書、社会科編』大阪書籍 ・小川一郎『在り方生き方指導の理論と実践』清水書院 </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td></td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文部省『中学校指導書、社会科編』大阪書籍 ・小川一郎『在り方生き方指導の理論と実践』清水書院 	参考文献	
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文部省『中学校指導書、社会科編』大阪書籍 ・小川一郎『在り方生き方指導の理論と実践』清水書院 				
参考文献					
評 価 方 法	単に、知識、理解をする講座ではないので、出席を重視する。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	実践的指導力を身につけ、充実した学習を行えるように、社会科教育法Ⅱも受講することを期待する。				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会科教育法Ⅰの講座の概要説明と戦前の修身、地理、日本歴史の授業内容、方法、性格について説明し、新しい社会科の前史を理解させる。
2	戦後当初の新しい科目設定構想、アメリカ教育使節団による社会科の提案などについて、また、社会科出発時の理念や設定経過について
3	戦後出発時の社会科の内容（初期社会科）について
4	問題解決学習の理論と方法について
5	初期社会科への批判が学力低下に向けられたことや、導徳教育充実方策と関連させて、社会科に対する批判や要望が出て、論議が行われたので、その事情や内容について
6	社会科の学習指導要領の変遷を追い、改訂ごとの趣旨や要点その背景などについて
7	最も新しい平成元年度の学習指導要領（社会科）の改訂について、また、その趣旨、改訂の要点、その背景などについて
8	社会科の目標、地理的分野、歴史的分野の改訂の要点、各目標、内容の概略について
9	公民的分野の改訂の要点、目標、内容について、また、教科全体の内容構成の特質について
10	各分野の指導計画の作成と内容の取り扱い方の特色について
11	社会科の各内容に即した指導法があることを示し、その概略について
12	現代の民主主義の課題のいくつかと、その取り扱いについて
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会科教育法Ⅱは、社会科教育法Ⅰの実践編というべきもので、社会科指導の実践的指導力を育成する講座である。その概要について説明する。
2	指導方法と特に関連の深い新しい学力観について
3	思考力、判断力、表現力、態度を育成する社会科の代表的な指導法について
4	学習指導案の作成について（教科書を参考に、実際に指導案を作成する）
5	作成した指導案について、学生の個々に発表させ、注意すべき点を指摘し、よりよい指導案を作成する。
6	実際に作成した指導案に基づいて模擬授業を行う。自己評価、意見交換、その講評
7	同上
8	同上
9	指導方法の一つとしてディベートを取り上げ、そのねらいや方法など説明し、実際にディベートを行うテーマを決め、次回に行うディベートの準備をする。
10	一つのテーマについて、実際にディベートを行う。行ったディベートについて、意見や感想を交換し、講評する。
11	同上
12	社会科教育法について、これまでの授業の総括、また、社会科の現代的課題について説明する。
備考	

科目名	地理歴史科教育法 [地理] (後)	担当者名	犬井 正
-----	-------------------	------	------

講義の目標	高等学校における地理歴史科の地理に関する教科教育法の講義である。地理教育史、地理教育の方法、地理教育の実際、地理教育の課題を考察する。	
講義概要	講義はVTR、討論形式、スライドなどを援用しながら進めていく。年間予定計画に示したように、毎回適宜なトピックスを提示しながら、高校における地理教育の実際、展望等を行う。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	参考文献リストを第二週以降に配布する。
評価方法	授業への貢献度とレポート等の結果を総合的に判断する。	
受講者に対する要望など	特になし。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等のオリエンテーションを行う。
2	第二次世界大戦後の地理教育のあゆみ。アメリカの社会科教育の影響、および日本の小・中・高等学校の地理教育の関連を中心とする。
3	社会科教育における地理教育と、新しい地・歴史科における地理教育との相違について。文部省高等学校学習指導要領を中心として考察する。
4	学習指導要領と教科書（地図帳を含む）の持つ意味について。「教科書で教えるのか、教科書を教えるのか」論争を考察する。
5	地理教育の実際(1) 地図（読図・描図）教育の基礎的方法について。
6	地理教育の実際(2) 自然地理学習の意義を理科教育、特に地学教育との関連と相違を通して考察する。
7	地理教育の実際(3) 野外観察、野外調査、地域調査の計画と指導法について。
8	地理教育の実際(4) 地理的情報の活用と効果的な地名学習の方法について。
9	地理教育の実際(5) 系統地理学習と地誌学習の相違および学習効果について。
10	地理教育の実際(6) 異文化理解と国際理解の方法。時事問題の取り扱い方に関連させながら講述する。
11	地理教育の実際(7) 年間指導計画と評価について。
12	講義のまとめにかえて、現在日本の地理教育が直面している課題について講述する。
備考	

科目名	地理歴史科教育法〔歴史〕(前)	担当者名	古川 堅治
-----	-----------------	------	-------

講義の目標	<p>「歴史」を教えるということは、常に教える側の歴史観を問われることでもある。その意味で「歴史」を教える事の「コトの重大さ」を認識する必要がある。それらを前提に現代の歴史学の成果との関連、歴史教育の沿革、具体的な方法などをとりあげながら歴史を教える基本的なスタンスを確立することが本講座のねらいである。</p>		
講義概要	<p>講義ではプリントを配布しながら概説的に説明していくが、積極的な討論がわきあがることも期待したい。また、ビデオの上映によって、今、話題になっている教科書論争についても考えていきたい。授業はアト・ホームな雰囲気で行うことに心がけたい。なお後半3回は「模擬授業」の回をもうけ、各回とも1～2人ずつ(1人30～40分)、それぞれ日本史、世界史どちらの分野でも自分の好きなテーマを選んで「授業」を行ってもらおう。</p>		
使用教材	テキスト	特に使用しない。	
	参考文献	最初の授業で「参考文献一覧表」を配布する。それ以外に適宜指摘することがある。	
評価方法	<p>基本的にはレポート提出により評価するが、出席や議論への参加度合も考慮する。なお、「模擬授業」を希望する人は、その報告・発表をもってレポートの代わりとする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>教員を志望して授業に臨むはずであるから、個々人が主体的・積極的に授業に参加することを期待する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「歴史教育と歴史学——なぜ歴史を学ぶのか?——」 1. 現在・過去・未来 2. 歴史を学ぶ者の責任と課題
2	「歴史教育の方法Ⅰ」 1. ビデオ・映像資料を使った学習 2. 史・資料の操作
3	「歴史教育の方法Ⅱ」 1. 人物の採り上げ方 2. 地域の学習
4	「世界史A」と「日本史A」の扱い方 1. 「A科目」と「B科目」 2. 世界史の場合と日本史の場合
5	「歴史教育におけるヨーロッパ史Ⅰ」 1. 「ヨーロッパ史」教育の今日的定義 2. 「文化圏」学習から「広域的地域世界」学習へ
6	「歴史教育におけるヨーロッパ史Ⅱ」 1. 世界史教育上の新しい視点 2. ひとつの事例
7	「歴史教育におけるアジア史Ⅰ」 1. 「日韓教科書論争」(ビデオ)
8	「歴史教育におけるアジア史Ⅱ」 1. 世界史における東アジアの課題と方法 2. 歴史認識の「共通化」の問題
9	「[まとめ]に代えて——歴史のこわさと面白さ——」 1. 歴史のこわさ 2. 歴史の面白さ
10	「模擬授業Ⅰ」
11	「模擬授業Ⅱ」
12	「模擬授業Ⅲ」
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	公民科教育法Ⅰ・Ⅱ（公民科教育法）	担当者名	小川一郎
-----	-------------------	------	------

講義の目標	<p>新学習指導要領（平成元年）によって、高等学校の社会科は再編成され、地理、歴史科と公民科となり、平成6年から実施されている。</p> <p>公民科では、国際化、情報化の進展に主体的に対応できる公民としての資質をもつ人間の育成を目指す。十分それを達成できる公民科教育法を身につけさせる。</p>		
講義概要	<p>戦前の公民教育が極端な国家主義や軍国主義に基づいたものであったことを認識させ、その反省の上に立って公民教育が出発したことを理解させる。</p> <p>公民科は、「公民としての資質の育成」を目指しているが、これを達成するための内容、方法について理解させる。</p> <p>後期の公民科教育法Ⅱでは、目標、内容に対応した指導方法を研究し、実際に模擬授業などを行い、実践的指導力を身に付けさせる。また、表現力や判断力を身に付けさせるため、ディベートの授業など新しい指導方法を開発する意欲と実践力を培う。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文部省『高等学校学習指導要領解説、公民編』実教出版 ・小川一郎『在り方生き方指導の理論と実践』清水書院 	
	参考文献		
評価方法	単に、知識、理解をする講座ではないので、出席を重視する。		
受講者に対する要望など	実践的指導力を身につけ、充実した実習が行えるように、公民科教育法Ⅱも受講することを期待する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間の公民科教育法について 特に、前期の公民科教育法Ⅰの講座の概要について 現代における公民科教育の役割について
2	公民教育刷新委員会の答申や新教育指針から引き出される公民教育の構想について
3	公民科教育の意義や目的を正しく理解するための「公民」の概念や「公民としての資質」について
4	公民科教育の代表的な指導法や新しい学力観について
5	平成元年の学習指導要領の社会科の再編成による公民科の誕生について、その理由、社会的背景について。また、社会科の倫理や政経の分野の歴史の変遷について。
6	公民科の教育目標、内容構成について
7	公民科の科目「現代社会」の目標と内容構成について
8	公民科の科目「倫理」の目標と内容構成について
9	公民科の科目「政治、経済」の目標と内容構成について
10	「人間としての在り方生き方に関する教育」と公民科の各科目における実践について
11	世界の主な国における公民教育について。 日本の公民教育と対比。
12	公民教育が現代において当面するいくつかの課題について
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	公民科教育法Ⅱは、公民科教育法Ⅰの実践編であること。後期の講座の概要について
2	新しい学力観における関心・意欲・態度の育成や表現力、判断力の伸長と公民科教育の関連について
3	公民科の授業づくりと「教育内容」、「教材」と「授業過程」について
4	公民科の教科書を参考に指導案の作成
5	作成した指導案について意見交換、講評
6	模擬授業の実施、自己批判、意見交換、講評
7	同上
8	同上
9	論理的な思考力や表現力を育成する授業方法としてのディベートについて
10	ディベートの実施、感想、意見交換、講評
11	同上
12	公民科教育法についてこれまでの講座の総括。 特に公民科教育法の課題について
備考	

科目名	道徳教育の研究（前）（後）	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-----	---------------	------	---------

講義の目標	今日の道徳教育への強い要請は、子どもの「心の飢餓」や「心の荒廃」への対応策として主張される傾向がある。しかし教育本来の目的は「人格」形成にある。子どもの中に自律的で実践的な道徳性を形成することを目標とする道徳教育は、教育の究極の目的であり、単なる対応策の手段ではない。古くから道徳は教えることが可能であるかが問われてきた。道徳に対する西欧の伝統と東洋の伝統は大きな違いをもっている。価値が多様化し、変化が激しい社会の中で、学校において共に道徳を学ぶことの意味は何かを考えてみたい。		
講義概要	次の諸問題について講義する。 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の哲学 ・道徳性の発達 ・道徳教育の歴史 ・学校における道徳教育の実践 		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『失われし自我を求めて』 ロロ・メイ著 誠信書房 ・『生きるということ』 E.フロム著 紀伊国屋書店 	
評価方法	定期試験によって評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「心の教育」が要請される教育の状況について
2	善さとは何かについて
3	道徳性について
4	道徳性の発達について
5	日本の戦前の道徳教育
6	日本の戦後の道徳教育
7	「道徳の時間」の特設とその実施
8	学校における道徳教育の構造
9	各教科や特別活動と道徳教育の関係
10	「道徳の時間」における指導について
11	道徳教育と教師
12	諸外国の道徳教育について
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「心の教育」が要請される教育の状況について
2	善さとは何かについて
3	道徳性について
4	道徳性の発達について
5	日本の戦前の道徳教育
6	日本の戦後の道徳教育
7	「道徳の時間」の特設とその実施
8	学校における道徳教育の構造
9	各教科や特別活動と道徳教育の関係
10	「道徳の時間」における指導について
11	道徳教育と教師
12	諸外国の道徳教育について
備考	

科目名	道徳教育の研究（後）	担当者名	川村 肇
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>道徳とは何であるのか、この「価値」にかかわる問題に、社会科学の面から考察を加え、諸価値の歴史的な位置づけと、現代・未来を見通した道徳のあり方を考える。</p>	
講義概要	<p>道徳の時間が学校に「特設」され、国家が道徳基準を示し、道徳教育の一層の充実を求めている時、国家と道徳は歴史的にどのような関係にあるのかを、国家と社会の差異を通して理解する。</p> <p>次に子どもの道徳的側面の成長の理論を紹介し、道徳性の発達を人間の発達に重ねあわせながら理解する。</p> <p>以上の理解の上に、今後の道徳教育の可能性を探る。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・M.ドベス『教育の段階』（岩波書店） ・尾花清『道徳教育論』（大月書店） ・堀尾輝久『人間形成と教育』（岩波書店） ・村田実『道徳は教えられるか』（国土社）
評価方法	<p>試験による。ただしもちこみは自由。出席も考慮する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>随時参考文献を読了されたい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の進め方の説明 自分たちの受けた道徳教育をどう考えるか (レポート)
2	どうして道徳は特設されたのか——教育の戦前と戦後——
3	国家と社会(1)——国家と社会はどのように違うか——
4	国家と社会(2)——社会とは何か——
5	国家と社会(3)——国家とは何か——
6	国家と社会(4)——国家と道徳との関係について——
7	人間の発達と道徳性の発達(1)——コールバニグの理論——
8	人間の発達と道徳性の発達(2)——ドベスの発達論——
9	道徳は教えられるか——村田実の理論と道徳論の歴史——
10	道徳のレベルについて(1)
11	道徳のレベルについて(2)——普遍的価値の問題——
12	試験
備考	

科目名	特別活動	担当者名	川村 肇
-----	------	------	------

講義の目標	特別活動の中でも特に重視されている「儀式的行事」について、その歴史と成り立ちへの理解を深めながら、子どもを主人公にした特別活動のあり方を探る。		
講義概要	<p>学校儀式において「国旗を掲揚し、国歌を斉唱するものとする」とされている。「国旗」・「君が代」の歴史をレクチュアするとともに、愛国人の意味・国家と社会の違いなどを討議する。</p> <p>特別活動において最も重要な、子どもの参加と自治を、どのように実現してゆくのか、ビデオ等を見ながら考える。</p> <p>余裕があれば、部活の勝利至上主義についての考察も行いたい。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	『教職課程講座 6 特別活動』（ぎょうせい） 折出他『教科外活動を創る』（労働旬報社） 『ゼミナール 生活指導を変える』（青木書店） 『日本の教育課程 1 「日の丸」と「君が代」と学校』（第一法規）	
評価方法	試験による。ただしもちこみは自由。出席も考慮する。		
受講者に対する要望など	討議を多くとり入れ考える授業にしたいので、積極的に参加されたい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の進め方の説明と、特別活動四領域の解説
2	「君が代」を考える(1)——グループ討議——
3	「君が代」を考える(2)——国家と社会——
4	「君が代」を考える(3)——愛国心とは何か/日本人のアイデンティティとは何か——
5	「君が代」を考える(4)——「君が代」の成立と「国歌」——
6	「日の丸」を考える(1)——グループ討議——
7	「日の丸」を考える(2)——「日の丸」の歴史と「国旗」——
8	戦前の日本の儀式と戦後の日本の儀式
9	特別活動の中心にすえるべきこと——子どもの参加と自治——
10	「三者協議会」と学校——ビデオによる——
11	部活の勝利至上主義について
12	試験
備考	

科目名	特別活動	担当者名	佐藤利明
-----	------	------	------

講義の目標	<p>学習指導要領第1章総則第1（款）教育課程編成の一般方針1、及び特別活動目標の基本理念と、各分野の具体的実践活動について理解する。さらに特別活動は生徒の活力育成に重要な領域であり、学校教育目標達成に直接大きな影響があることも講義する。</p>	
講義概要	<p>学習指導要領について（各答申を含む）。教育課程編成の一般方針。 特別活動の変遷及び特別活動の特質と目標。学校教育目標の具現化と特別活動。生徒の自律性、自主性、自発性、そして創造性を養う重要な領域であることを理解する。 学級（H・R）活動の人間関係と指導計画の実際。 生徒会活動の意義と指導計画の実際。学級（H・R）活動との関連。 クラブ活動の意義と組織運営及び課外活動との関連。問題点。 学校行事の意義と指導計画。各行事の実際。 特別活動と週5日制時代における地域とのかゝわり。 特別活動の評価と課題。</p>	
使用教材	テキスト	<p>現代の特別活動—理論と実践— 酒井書店・育英堂。 プリント配布。</p>
	参考文献	<p>中学校指導書 特別活動編 文部省。 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 文部省。</p>
評価方法	<p>レポート評定と定刻出席。 レポート課題←最終時出題。 レポート提出 教務課1係あて 平成9年7月22日（火）メ切。</p>	
受講者に対する要望など	<p>「指導者」を目指す意識を強くもって受講する。 止むを得ず欠席の場合、事前に欠席届と作文（課題はその都度提示）を提出する。事後の場合はすみやかに同様提出する。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	期中の講義内容の概要説明。学習指導要領及び第1章総則第1(款)教育課程編成の一般方針について。幼・小・中・高等学校教育の一貫性について。
2	学校教育と特別活動の理念と意義について。教師の援助・助言・指導について。
3	特別活動の変遷。学校生活の充実・改善向上をはかる。特別活動の授業時数について。
4	自主的、自発的、自治的資質・能力の育成。指導計画、指導案の作成。
5	学級活動、ホームルーム活動について。存在感・成功感・充実感・連帯感を体験学習をとおして育成する。
6	生徒会活動の指導。
7	クラブ活動の指導と課外活動について。
8	学校行事の指導。
9	特別活動の評価。いじめ等今日的課題の討議とまとめ。
10	特別活動と学校・学年・学校経営。教育相談。
11	学校週5日制時代における家庭・地域とのかかわり。
12	これからの特別活動の展望と課題。レポート課題提出。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	生徒指導法	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-----	-------	------	---------

講義の目標	<p>教育は「性格」の育成をめざしている。学校教育においてこのことが自覚的に取り組まれ始めたのはそれ程古いことではない。学校における性格形成の方法は、合理的組織的な集団生活を、いかに「人間化」し、子供たち自身の充実した活動の場へと形成していくかによっている。その過程で、子供が自他についての理解を深め、自らの進路を見出すことができるように指導することが生徒指導（guidance）に期待されている。このような課題に応えるための基礎的な知識の整理と具体的な事例を分析しての教育的人間関係についての問題提起をしたい。</p>	
講義概要	<p>次の諸問題について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育と生徒指導 ・生徒指導の本質 ・生徒指導の組織と運営 ・生徒指導と生徒理解について ・生徒指導の基礎理論 ・生徒指導の方法 ・学校教育相談の基礎理論 ・進路指導の基礎理論 	
使用教材	テキスト	適宜、プリント配布
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『子どもの自己概念と教育』梶田毅一著 VP選書 東京大学出版会 ・『自己意識の心理学』梶田毅一著 VP選書 東京大学出版会
評価方法	評価は、レポートと試験によって決定する。	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	社会の変化と教育の荒廃が提起する教育の課題について
2	生徒指導の意義と目的について
3	生徒指導の方法原理
4	生徒指導と学級担任の役割及び学級経営の問題について
5	生徒指導の法制と規範について
6	生徒指導における生徒理解の意義
7	生徒の自己理解について
8	生徒指導の基礎理論
9	生徒指導の方法について
10	カウンセリング理論について
11	教育相談の方法について
12	進路指導の基礎理論
備考	

科目名	生徒指導法	担当者名	川村 肇
-----	-------	------	------

講義の目標	「体罰」と「いじめ」について、事例をビデオなどで確認しながら考えることを通して、本来求められる生徒指導のあり方を考える。		
講義概要	生徒指導上、現在最も大きな問題となっている、体罰といじめを、具体的事例を通して考える。体罰については、「罰」そのものの問題、歴史的な経過、法的問題、教育原理上の各視点から考えてゆく。いじめについては、社会的背景、家庭の問題、学校の問題、子どもたちの問題の各レベルから考察し、その解決への道筋を探っていく。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	渡辺他『生徒指導の理論と実践』（樹村房） 竹内常一『子どもの自分くずしと自分づくり』（東大出版） 『いじめ・子ども世界 何が問題か』（青木書店） 坂本秀夫『体罰の研究』（三一書房）	
評価方法	試験による。ただしもちこみは自由。出席も考慮する。		
受講者に対する要望など	討議も多くとり入れたいので、積極的に参加されたい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の進め方の説明
2	「問題行動」とは何か——何が「問題」であるのかを考える——
3	体罰を考える(1)——体罰は是か非か——
4	体罰を考える(2)——どういう場面で体罰は起こるか——
5	体罰を考える(3)——体罰死事件を考える——
6	体罰を考える(4)——罰の効果について——
7	体罰を考える(5)——体罰の諸問題——
8	いじめを考える(1)——中学生たちの声——
9	いじめを考える(2)——クラスをなくすとどうなるか——
10	いじめを考える(3)——いじめをなくした実践例——
11	いじめを考える(4)——いじめにどうとりくむか——
12	試験
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(前期に同じ)
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	生徒指導法	担当者名	福島哲夫
-----	-------	------	------

講義の目標	生徒の悩みに向き合い、相談にのれる技量と人格を身につける。		
講義概要	上記の目標を達成するため、実例・事例にできるだけ多く触れ、豊富な実習を通じて学んでいく。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義の中で紹介する。	
評価方法	出席と課題提出を重んじる。また、実習の出来も加算される。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「悩みを聴く」「相談にのる」とはどういうことかについて講義。
2	実例・事例にもとづいて学校内カウンセリングについて考える。
3	出席者同士のカウンセリング実習
4	出席者が提出したカウンセリング実習のテープと逐語録をもとに学校内カウンセリングについて考える。
5	同 上
6	"
7	"
8	"
9	"
10	"
11	"
12	"
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	教育実習Ⅰ	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-----	-------	------	---------

講義の目標	<p>本講義は教育実習の事前・事後指導に関わる内容を、実習に先立って提示し、教育実習を研究的に行うことができる視点を養うことを目指す。教育実習に向けての実際的な知識・技術を整理し、現場の教育について理解を深めることを目的とする。</p>	
講義概要	<p>次の諸問題を取りあげ講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習をすることの意義 ・学校の組織の理解 ・授業へのとりくみ ・道徳・特別活動・学校行事へのとりくみ ・実習期間を楽しく効果的に過ごす工夫 	
使用教材	テキスト	適宜、プリントを配布する。
	参考文献	
評価方法	出席状況とレポートの提出によって評価する。	
受講者に対する要望など	講義を欠席した場合には課題を出し、レポートの提出を求める。又、実習の事前指導であるため、良い実習を行うためにも積極的な学習をして欲しい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教育実習の意義について
2	教育実習に向けての準備・心得について
3	教育実習の形態「観察」・「参加」・「実習」について
4	学校の組織と教育活動について
5	授業へのとりくみについて
6	教材研究のあり方について
7	教育課程の運営と学級経営について
8	学級担任の仕事について
9	教職の専門性・職務・研修などについて
10	教師の資質について
11	学校の抱える様々な問題について
12	レポートの課題の提示や実習を研究的に行うためのテーマの設定などについて
備考	

科目名	教育実習Ⅰ	担当者名	佐藤利明
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>教育行政のしくみ。</p> <p>学習指導要領・教育課程の基本的事項。</p> <p>魅力ある授業の展開。</p> <p>生徒と生徒、生徒と教師のよい人間関係信頼関係をつくる工夫。</p> <p>教師の学校での勤務状況を理解する。</p> <p>一層充実した感動ある教育実習に資する。</p>	
講義概要	<p>都道府県・市町村教育会と学校、教職員の採用と服務関係。</p> <p>私立学校。</p> <p>教育職員としての専門性。</p> <p>学習指導要領の根拠と教育課程。</p> <p>よい授業をすゝめるための教材研究。</p> <p>学習指導案の立案と指導の実際と評価 評価の生かし方。</p> <p>生徒指導・道徳教育・特別活動・同和教育・生徒理解等。</p> <p>教師の一日。記録する習慣を身につける。</p> <p>職員会議、学年会、教科会等各会議への参加の心構え。</p> <p>学校教育の今日的課題。現代の対応及び将来を見通した対応。</p>	
使用教材	テキスト	<p>教育実習の指針（獨協大学教務部学務課免許課程係編集・発行）</p> <p>プリント配布</p>
	参考文献	
評価方法	<p>レポートの評定と定刻出席。</p> <p>レポート提出 教務課1係あて、平成10年1月22日（木）まで。</p> <p>レポート課題 最終時出題。</p>	
受講者に対する要望など	<p>「指導者」を目指す意識を強くもって受講する。</p> <p>止むを得ず欠席の場合は、欠席届と、作文（課題はその都度提示）をすみやかに提出する。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	(1) 講義概要説明 (2) 学校教育に関する関係法令・規則の概要、目的と目標、都道府県教育委員会と市町村教育委員会、教育委員会と公立学校及び教職員 (3) 私立学校
2	学習指導要領（各審議会答申を含む）のねらい。幼・小・中・高等学校教育の発達段階（課題）に応じた一貫性ある教育。教育課程編成。
3	教育職員の専門性（教務観、教師像、研修、生徒理解等）。学習意欲を喚起する等の工夫。
4	年間指導計画と学習指導案の実際。
5	よい授業をするための教材研究。教育機器とその活用。学習指導案の実際。
6	指導方法、成就感、成功感、存在感等を味あわせる指導。学習指導案の実際。評価。
7	生徒指導のねらい（特に心の教育の充実ほか3項）の具現化、生徒理解、教育相談、同和教育等、学校事故。
8	道徳教育のねらい、資料と指導案のたてかた。
9	特別活動のねらい、学級（H・R）活動の指導の実際と学級（H・R）経営。短時間学級（H・R）活動の指導。
10	教師の一日、出勤から退勤までの活動のなかで特に留意する事項。
11	職員会議、学年会、教科会等への参加と心構え。
12	教育実習へ臨むについてのまとめ。学校教育の今日的課題の討議と展望。 レポート課題提出。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	教育実習Ⅰ	担当者名	小川一郎
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>教育実習について、その概要を理解し、目的意識をもつてのぞめるようにする。そのためには教育実習の意義や目的について、先ず、十分に理解させる。</p> <p>実習校に新風を吹き込んで生徒に刺激を与えるために、実習にのぞむ心構え、生徒とのコミュニケーションのとり方などを重視する。さらに実習期間における仕事の内容を理解させ、十分に事前の準備ができるようにする。</p>	
講義概要	<p>教育実習の意義・目的について</p> <p>教師の仕事の性質について</p> <p>教師の資質とその形成について</p> <p>実習にのぞむための目的意識とその準備</p> <p>学校の仕事の内容について</p> <p>学校の現代的課題について</p> <p>実習生の立場について</p>	
使用教材	テキスト	適宜、プリント配布
	参考文献	小川一郎編著『ホームルーム担任必携』文教書院
評価方法	<p>評価は、レポートと授業への参加を考慮して決定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>教育実習の事前指導なので、講座に出席することが大切である。</p> <p>教育実習が間近に迫るといろいろ不安や疑問をもつようになる。十分な準備と心構えをつくる必要がある。適宜、個人指導する。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教育実習Ⅰ・Ⅱが制度化された意義や目的について、また、この講座の概要について
2	教師の仕事の性質、教師の資質について
3	教育実習の意義・目的について 先輩実習生の感想、意見などについて
4	教育実習全般の事前の準備や実習校との連絡、実習期間、事後の対応、心得と準備について
5	教育実習の形態、(1)観察、(2)参加、(3)教壇実習について
6	教育実習の仕事の内容、学校の教育活動の概要について
7	研究授業への対応、教材研究について、特に、教材研究には多くの時間を必要とするので、その自覚と心構えについて
8	学級担任としての学級経営と学級経営上の諸問題について
9	学級担任としての生徒指導、進路指導について、最近、いじめ、登校拒否（不登校）、高校中途退学など対応のむずかしい問題が増加しているのでその対応について
10	生徒理解の方法と生徒とのコミュニケーションについて
11	教師として義務づけられている研修と法規について 教師としての服務や勤務など、必要な法規について
12	教育実習の記録、反省など教育実習日誌の記録や毎日の指導教官との報告、連絡、相談について。
備考	

科目名	日本史概説	担当者名	新井孝重
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>前期には、古代から中世の変革の「法則」を具体的な歴史叙述をたどるなかで学びとる。歴史を理論的、哲学的に学びたい。後期には、実際の授業が現場の先生によって、どのように行なわれているのか。授業実践の報告を読みながら考える。</p>		
講義概要	<p>①戦後歴史学の主要な学説は、領主制理論というものが主軸になっている。奴隷制的経済制度を揚棄して、新たな経済制度である農奴制が形成されるが、そうした変革期の中世農村のすがたを、村落共同体、武士団、荘園制などの歴史事項を通して学ぶ。</p> <p>②歴史授業のくみたてと、そのための教材のあつかいを学ぶ。</p>		
使用教材	テキスト	<p>石母田 正『中世的世界の形成』(岩波文庫)</p> <p>歴史教育者協議会編『前近代史の新しい学び方』(青木書店)</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は、後期の年度末試験の成績にもとづいておこなうものとする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>大幅な遅刻のばあいは、入室を遠慮してもらいたい。(佳境へ入ったところで授業が攪乱されるから)</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業。『中世的世界の形成』という書物のあつかうテーマ、叙述の構成を紹介して、これを読書することの学問的意義を論ずる。
2	第2回目の授業。第1章 藤原実遠（私営田領主としての藤原実遠の所領の成立、構造、特徴を説明）
3	第3回目の授業。第1章 藤原実遠（私営田経営の破綻の必然性、初期領主実遠の没落とその跡にあらわれる東大寺の支配をみる）
4	第4回目の授業。第2章 東大寺（Ⅰ）（古代の東大寺の財政的逼迫、畿内近国荘園としての黒田荘建設運動の様態をみる）
5	第5回目の授業。第2章 東大寺（Ⅱ）（東大寺の公領侵略にあたっての独特の古代理論を、荘の住民の身分規定を通してみる）
6	第6回目の授業。第2章 東大寺（Ⅲ）（古代都市奈良に所在する東大寺は本質的に農村と敵対する法をもっていた。古代法と中世法の二つの法をみる）
7	第7回目の授業。第3章 源俊方（Ⅰ）（農村の支配者源俊方について、彼の家系、生活の形態、精神、感情などをみる）
8	第8回目の授業。第3章 源俊方（Ⅱ）（源俊方とその一統からなる在地の武士団を、存在構造・惣領制などを通してみる）
9	第9回目の授業。第3章 源俊方（Ⅲ）（源俊方は農村の領主的支配権を守るために東大寺と戦って敗れる。その後農村の武士は封建的領主への成長に失敗）
10	第10回目の授業。第4章 黒田悪党（Ⅰ）（武士の敗北のあと、東大寺は悪僧を荘園に下向させて武装統治にあたる。東大寺によって古代は再建された）
11	第11回目の授業。第4章 黒田悪党（Ⅱ）（荘園支配の矛盾に遭遇する寺家は新しい統治方式を生みだすが、それがいかなるものであったかをみる）
12	第12回目の授業。第4章 黒田悪党（Ⅲ）（東大寺に反抗する在地の武士が悪党としてしか存在しえなかったことの意味を考える。）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	〈古代国家の形成〉(1)原始古代の授業プランと授業の位置づけ (2)東アジア世界との関連 (3)地域から日本史の全体像へ
2	前回のつづき (4)懇田永年私財法と初期荘園の取り扱い (5)コメント
3	〈古代文化の特質〉(1)国風文化の特徴 (2)平安貴族は何を食べたか
4	前回のつづき (1)授業の反省 (4)コメント
5	〈中世社会の成立〉(1)古代荘園から中世荘園へ (2)加藤・今野・木村の批判
6	前回のつづき (3)公田制から荘園公領制へ (4)コメント
7	〈中世国家と東アジア〉(1)「歴史地理教育」にみる「元寇」学習 (2)生徒の「元寇」認識と授業の展開
8	前回のつづき (3)歴史研究と歴史教育の課題 (4)コメント
9	〈中世文化史〉(1)鎌倉新仏教のとらえ直しと授業
10	前回のつづき (2)南北朝文化の授業 (4)コメント
11	〈中世の民衆〉(1)生き生きと時代を生きぬく中世の民衆 (2)楽しくわかる中世の学習・ いざ鎌倉 ・ 阿弖河(あてがわ)の農民 ・ 新しい村
12	(3)生きる力を励ます歴史学習を (4)コメント
備考	以上の項目はテキストの項目をそのまま転載した。各項目にしたがって、吟味し、勉強していく。

科目名	外国史概説Ⅰ・Ⅱ（東洋史概説）	担当者名	熊谷哲也
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>イスラーム世界の歴史について学ぶ。前期のみ、あるいは後期のみ単独に受講する学生も多いので、それぞれ別の目標をおきたい。前期（外国史概説Ⅰ）は歴史の概略を理解することを目標とし、後期（外国史概説Ⅱ）は宗教・文化・社会などさまざまな側面からイスラーム世界を捉えることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>前期（外国史概説Ⅰ）では、イスラーム教創始以降の歴史を概観し、広大なイスラーム世界が成立する様相と、キリスト教世界との関係について検討する。イスラームにかんする基本的な知識をもあわせて理解する。</p> <p>後期（外国史概説Ⅱ）では、西アジア世界のさまざまな部分にスポットをあて、毎回テーマを変えてすすめてゆく。最後に現在のイスラーム諸国における国際関係を検討することにより、さまざまな問題を理解する糸口としたい。</p>		
使用教材	テキスト	とくに定めない。	
	参考文献	授業で指示する。	
評価方法	<p>前期と後期にそれぞれ筆記試験をおこなう。東洋史概説として通年受講する者についても同様である。</p>		
受講者に対する要望など	<p>外国史Ⅱのみを後期から受講する者は、第1時間目を欠席しないよう配慮すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション。イスラーム教の六信五行（柱）について説明する。
2	ユダヤ教・キリスト教とイスラーム教の関係について理解する。これら3つの宗教は多くの共通点を持ち、その関係は今日においても重要な問題である。
3	預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、当時の商業都市メッカ社会について考える。
4	預言者の死後、彼の代理人であるカリフ（ハリーフ）たちが支配した正統カリフ時代について考える。
5	ウマイヤ朝について考える。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。
6	アッバース朝について考える。古典理論にみられる「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味を検討する。
7	アッバース朝の弱体化にともない、各地に出現した軍事政権とその展開について概観する。
8	エジプトのマムルーク朝について学ぶ。マムルーク軍人による支配、とくにイクター制と呼ばれる制度がヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。
9	オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点を検討する。
10	ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考える。レコンキスタ、十字軍、大航海時代などについて検討する。
11	同上。
12	まとめを行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	イスラーム教の基本事項について確認する。後期から外国史概説Ⅱを受講する者へのオリエンテーションをかねる。
2	イスラームの教義の概略と、その土台である、コーラン（クルアーン）とハディースについて説明する。
3	中世イスラーム世界の学問と思想、および近代ヨーロッパの科学のさきがけとなったイスラーム科学について概説する
4	イスラーム世界の学問の担い手であるウラマーについて、その知識人階層としての、社会的な役割や権力との関係について考える。
5	イスラーム神秘主義思想（スーフィーズム）について、その内容と、民衆の教化にはたした役割について検討する。
6	イスラーム世界の儀礼について、人々の日常生活におけるさまざまな慣習も含めて説明する。
7	イスラーム法（シャリーア）について説明する。また、それにもとづく人々の社会生活について考える。
8	イスラーム世界における文学、芸術について概説する。
9	イスラーム世界における都市と社会生活について概観し、イスラームが都市の文明と呼ばれる背景を検討する。
10	ヨーロッパ列強による帝国主義とイスラーム世界との関係について考え、近代化がイスラーム世界にもたらしたさまざまな影響について考える。
11	イスラーム諸国の成立と、さまざまな国際関係について考える。
12	まとめを行なう。
備考	

科目名	外国史概説Ⅲ・Ⅳ	担当者名	久慈栄志
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>ヨーロッパ諸国の「近代化」過程を、社会・文化・経済・宗教等の側面から考察する。</p> <p>「近代化」の特質とその功罪を検証し、明治以降の日本にいかなる影響を与えてきたか、という点もあわせて論じたい。</p> <p>21世紀を目前にした現在、人類が抱えている諸問題は数多く、しかも難問ばかりである。この講座が、それらを解決する為の糸口のひとつとなることを願っている。</p>		
講義概要	<p>前期は15世紀から19世紀前半までの「諸権利獲得」に至る経緯、後期は19世紀後半以降の「帝国主義的膨張政策」の内容吟味が中心となろう。</p> <p>また、受講者が社会科（地歴・公民）教員を志望する学生であることを考慮し、時事問題を適宜とりあげ、問題意識の啓発・構築に供したいと考えている。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定しないが、下に掲げた参考文献中2冊程度は目を通してほしい。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・西嶋定生、木村尚三郎他編『世界歴史の基礎知識』(1)(2) 有斐閣 ・大下尚一他編『西洋の歴史(近現代編)』ミネルヴァ書房 ・猪口孝著『社会科学入門』(中公新書No.760) 中央公論社 ・猪口邦子著『戦争と平和』(現代政治学叢書17) 東大出版会 ・阿部謹也著『ヨーロッパを見る視角』(岩波セミナーブックス58) 岩波書店 ・角山栄著『産業革命と民衆』(生活の世界歴史10) 河出書房新社 	
評価方法	<p>外国史概説ⅢとⅣは各々試験を実施し、別々に評価する。</p> <p>西洋史概説は前期と後期の2回の試験によって総合的に評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>高校世界史レベルの基礎知識はマスターしておくこと。</p> <p>同時代人的視点で歴史事象を捉える姿勢を身につけてもらいたい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 本講義の目的。歴史学の役割と学ぶ姿勢。
2	歴史学へのアプローチ 文献の検索、史料収集、論文作成等について。
3	歴史叙述・歴史理論の変遷(1) 古代から中世までについて解説する。
4	歴史叙述・歴史理論の変遷(2) 近代以降について解説する。
5	「近代」の概念について ヨーロッパ中心史観に起因する「近代」の概念について考察する。
6	「近代」の幕あけ(1) 宗教改革に見る近代性と、インパクトについて考える。
7	「近代」の幕あけ(2) いわゆる「地理上の発見」がもたらした価値観の転換と、ヨーロッパ優位を前提とした世界分割について説明する。
8	ヨーロッパ市民革命(1) イギリス・フランスの両革命における共通点と異質なるものを取りあげ、国民性の違いや、今日なお受け継がれている精神は何かを考える。
9	ヨーロッパ市民革命(2) 同上の内容。
10	産業革命(1) イギリス産業革命を例にとり、その「魔力」と、社会的諸矛盾をあぶり出し、社会主義運動の必然性についても言及したい。
11	産業革命(2) 同上の内容。
12	予 備
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 前期の簡単な復習と、後期で扱う諸問題の概観。
2	19世紀のドイツ(1) ヨーロッパ中央部に位置しつつも、「後進国」の地位に甘んじていたドイツの近代化政策について多面的アプローチを試みたい。
3	19世紀のドイツ(2) 同上の内容。
4	「近代」総括(1) ヨーロッパ諸国の近代化過程を振り返り、その業績を正と負の両面から分析し、「近代」のまとめとしたい。
5	「近代」総括(2) 同上の内容。
6	帝国主義と世界分割(1) 資本主義の矛盾と限界、経済活動と戦争がいかに密接であるかを考える。
7	帝国主義と世界分割(2) 第一次世界大戦について「科学技術の発展と人類の不幸」という観点から捉えてみたい。
8	戦間期の諸問題(1) ヴェルサイユ体制の本質とナショナリズムの台頭。現代も尚、人々の深層心理に潜む思想とは何か。
9	戦間期の諸問題(2) 同上の内容。
10	今後の課題(1) 21世紀に向けて、人類が真剣に取り組まなくてはならない地球規模の課題について「人口爆発と食糧危機」に焦点をあて共に考えたい。
11	今後の課題(2) 同上の内容。
12	予 備
備考	

科目名	地理学概説	担当者名	山本 充
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>地理学において用いられてきた主要な概念を理解し、実際に様々な分野で、これらの概念を用いて地理学者がどのような研究を行っているのか展望することを通して、地理学的な見方、考え方を身につけることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>まず前期において、地理学における重要な概念である「地域」、「伝播」、「環境」、「統合」「景観」を理解し、それぞれの概念の定義と応用、基礎的知識について学ぶ。</p> <p>これをふまえて後期では、幅広い地理学の分野の中で、これら概念を用いて実際に地理学者が対象に対してどのようなアプローチをしているのか概観する。ここでは、人口、農業、政治、言語、宗教、民族、民俗文化、大衆文化、都市がトピックとして取り上げられる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>とくに教科書は指定しない。毎回、資料を配布し、そこで参考文献を提示するので、それを参照されたい。理解を助けるために、地図帳を持参することをすすめる。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前後期2度のレポートと出席状況による。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要説明。主要概念の理解。地域(1)：地域の定義、地域区分の手法
2	地域(2)：地域構造の把握
3	伝播(1)：伝播の理論と類型
4	伝播(2)：イノベーションの受容
5	環境(1)：環境論の変遷
6	環境(2)：地形の形成と分類
7	環境(3)：気候と植生、人間活動と気候変動
8	統合(1)：地理学におけるモデル構築
9	統合(2)：地理学における計量的手法
10	景観(1)：景観論の変遷
11	景観(2)：景観の読解法
12	主要概念のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の課題の返却と寸評。前期の復習と後期の概要説明
2	人口：世界の人口分布、人口移動、人口抑制策の伝播、人口の遍在と環境要因・文化要因、集落形態
3	農業：世界の農業様式、農耕の起源と伝播、農業と環境、農業と民族、農業景観
4	政治：国家の形態と安定性、政治イデオロギーの伝播、地政学と環境論、投票パターンと経済社会的要因、国境の両側の地域の景観
5	言語：世界の言語の分布と伝播、言語の避難所としての環境、経済発展と言語の衰退、言語の表現としての地名
6	宗教：主要宗教の起源と現在の分布、宗教の性格と環境、宗教と環境の改変、宗教と経済・食習慣、生の景観・死の景観
7	民俗文化：民俗文化地域、民間療法、民俗分類、民俗建築
8	大衆文化：スポーツ・嗜好食品の地域、メディアと大衆文化の伝播・変容、大衆文化と環境破壊、エリート空間
9	民族：民族地域、民族移動と文化の伝播、居住地選択、民族と産業活動、民族と集落パターン
10	都市1：世界の都市地域、都市の内部構造、都市形態の発達、都市の拡大
11	都市2：都市の立地と環境、都市活動と環境変化、都市景観の知覚
12	地理学の応用について。後期のまとめ
備考	

科目名	地誌学概説Ⅰ・Ⅱ（地誌学概説）	担当者名	山本 充
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>特定の地域を研究対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。ここでは、地誌学における重要な概念「地域」と地域の分析方法を理解した上で、これらを用いて事例地域をとりあつかうことを通して、地誌学における地域のみかたを身につけることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>まず、地理学の中における地誌学の位置、ならびに地誌学における重要な概念「地域」を理解し、地域を扱う上で必要な文献や地図類の種類と利用法、地域の分析手法についても習得する。これらをふまえて、ヨーロッパを事例としてとりあげ、自然環境、民族と国家、都市と農村などとそれらの相互関係を考察することを通して、一般的な地域のみかたを学ぶ。</p>		
使用教材	テキスト	<p>とくに教科書は指定しない。毎回、資料を配布し、そこで参考文献を提示するので、それを参照されたい。理解を助けるために、地図帳を持参することをすすめる。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前後期2度のレポートと出席状況による。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要説明。
2	地域概念の考察(1)：地域概念の変遷、地域の定義
3	地域概念の考察(2)：等質地域と機能地域
4	地域構造の把握(1)：地域構造図、地域構造モデル
5	地域構造の把握(2)：地域区分の方法
6	地域構造の把握(3)：地域区分の方法その2
7	地域分析の基礎(1)：地域文献・資料・統計の所在と検索
8	地域分析の基礎(2)：地図の種類と利用、主題図作成の基礎
9	地域分析の手法(1)：現地調査の基礎
10	地域分析の手法(2)：統計分析の基礎
11	地域分析の手法(3)：GIS 地理情報システムの基礎
12	地域研究の意義と応用
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要説明。事例地域ヨーロッパの位置と自然環境：半島としてのヨーロッパ、気候と植生
2	ヨーロッパにおける民族のモザイク(1)：言語と宗教の伝播と分布
3	ヨーロッパにおける民族のモザイク(2)：少数言語集団の問題
4	ヨーロッパの国家と超国家組織(1)：国家の分裂と統合
5	ヨーロッパの国家と超国家組織(2)：EU・国家・地域の関係の変化、国境の役割
6	ヨーロッパの都市(1)：人口の集中と都市発達史
7	ヨーロッパの都市(2)：都市の形態と機能
8	もう1つのヨーロッパー農山村(1)：伝統的農業と集落形態、民家
9	もう1つのヨーロッパー農山村(2)：周辺農山村のすがた
10	ヨーロッパの産業：工業生産と人、もの、情報の流れ、資源と産業の発達
11	ヨーロッパの交通：内陸河川の役割、高速道路と環境問題、高速交通時代
12	ヨーロッパの地域構造：ヨーロッパの東と西、南と北、中心と周辺
備考	

科目名	地理学調査法	担当者名	犬井 正・山本 正三
-----	--------	------	------------

講義の目標	<p>地理学では、自然地理学、人文地理学にかかわらず、フィールドワークが重要である。また地理教育でも自然・人文に関する地域調査を重視している。本講座は文献資料による調査法のみならず、フィールドワークを実施し、地域調査の立案・指導・評価の実際について学んでいく。</p>	
講義概要	<p>文献資料の収集法、質問紙の作成法、読図法、データ処理法などのインドアワークだけでなく、歩測図の作成などの野外実習などを経験した後に、2泊3日のフィールドワークを行う。フィールドワーク実習は、例年、前期の定期試験終了後に、福島県新甲子にある獨協大学研修所を拠点として実施している。</p>	
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	特になし
評価方法	<p>実習レポートの結果および講義等への貢献度を総合的に判断する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>実習に参加できない者は、評価が不能であるため、選択しないこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の受講の心構および、講義方法、講義内容等のオリエンテーションを行う。受講者多数の場合は、第1週出席者を優先する。
2	自然環境の調査方法と利用可能資料の入手法について。
3	同 上
4	地図の活用法。
5	歩測図の作成原理と作成実習。
6	同 上
7	同 上
8	地域調査の計画と指導法について。聞き取り調査法とアンケート項目の作成法など。
9	野外調査法の実際（バス巡検、土地利用調査などのフィールドワーク、各種施設の見学）。前期定期考査直後実施の2泊3日の実習で振り替え。
10	同 上
11	同 上
12	収集資料の整理、活用と報告書の作成方法。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	社会学概論	担当者名	有吉広介
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>中学・高校の社会科教育のなかで取りあげられる関係事項を中心として、現代の社会生活を理解するための基礎的な考え方を講義する。</p>	
講義概要	<p>まず、社会的存在としての人間の諸相を考えるための基本的な概念を取りあげ、そのなかで、人間、社会および文化の相互関係を考察する。ついで、社会生活の基本単位といわれる家族集団が、近代化のさまざまな過程のなかでどのように変化してきたかを問題にする。特に核家族化の問題点を考察する。引き続いて、近代から現代にわたって展開してきた社会の産業化、都市化、大衆化、官僚制化、学歴社会化、情報化、および福祉化の諸現象について逐次ふれながら、現代の社会問題の基礎を明らかにする。最後に、今日解決をせまられている高齢社会の諸問題の背景に、現代社会のさまざまな構造的特質があることを指摘する。</p>	
使用教材	テキスト	プリントを配布する。
	参考文献	適時紹介する。
評価方法	<p>前期および後期の終りに提出を求めるレポートで評価する。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会行動の構造
2	社会集団の構造と機能
3	人間、社会、文化の相互関係
4	家族の構造と機能
5	家族制度・核家族化
6	社会の産業化
7	職業社会・雇用社会
8	官僚制化
9	大衆社会
10	社会の階層化
11	日本人の「中」意識の背景
12	前期講義の補足
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	都市化
2	都市問題
3	新しいコミュニティ
4	学歴社会の性格
5	日本の近代化と学歴尊重
6	社会の情報化
7	社会の福祉——生活の質の重視
8	日本人の生活時間の使い方
9	社会の高齢化
10	高齢社会に対する日本人の意識
11	高齢社会への対応
12	後期講義の補足
備考	

科目名	哲学概説	担当者名	河 口 伸
-----	------	------	-------

講義の目標	教師として以前に、一人の人間として真摯に生きるために「哲学」が持つ意義を考えてもらいたい。		
講義概要	西欧思想を歴史的に辿ることが、本講義の概要であるが、そこには二つの偏りが存在していることを意識しつつ論じて行きたい。西欧哲学としての偏りと明治以降の輸入哲学としての偏りとである。哲学を、ギリシア起源の「学」としてのみ捉えるのではなく、幅広く「思想」として捉え、政治・社会・宗教・歴史・科学等への影響をも視野に入れて論じたい。		
使用教材	テキスト	『精神史としての哲学史』 角田幸彦編 東信堂	
	参考文献	講義の際に随時指示する。	
評価方法	履修者の数によって変更はあり得るが、基本的には次の通り。前後期の定期試験、不定期のレポート提出、出席点を総合的に評価する。出席が不良の者は評価に値しない。出欠は毎回とる。		
受講者に対する要望など	講義に出席しているだけでは、単位修得は不可能である。ノートをとるだけでなく、自ら考えることが必要である。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	哲学とは何か(1)
2	ソクラテス以前
3	ソクラテス
4	プラトン
5	アリストテレス
6	スコラ哲学
7	ルネサンスと宗教改革
8	科学革命
9	合理論と経験論(1)
10	合理論と経験論(2)
11	啓蒙主義
12	社会契約説
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	カント
2	ドイツ観念論
3	キルケゴール
4	ニーチェ
5	マルクス
6	フッサール・ハイデッガー・ヤスパーズ(1)
7	フッサール・ハイデッガー・ヤスパーズ(2)
8	歴史主義・解釈学
9	ヴィトゲンシュタイン
10	構造主義
11	言語哲学
12	哲学とは何か(2)
備考	

科目名	倫理学概論	担当者名	中島文夫
-----	-------	------	------

講義の目標	高等学校で「倫理」を教えるのに必要な基礎的教養を得させることを目標とし、併せて、中学校において「道德教育」を実践するための精神的基盤の確立にも資するよう配慮する。	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理学とはどういう学問であるか。学問の全体系の中でどういう位置を占めるか。 2. 主要概念——この中で、思想史上重要な思想家の学説にも触れることになる。 3. 現代における倫理的諸問題。 	
使用教材	テキスト	使用しない。ただし、レジュメのプリントを配布する。
	参考文献	必要に応じて随時指示する。
評価方法	<p>前・後期共、筆記試験を実施する。</p> <p>出欠は毎回点検し、評価の一要素とする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>欠席・遅刻を当然の権利と考えないこと。</p> <p>私語を厳に慎むこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	倫理学とは何か。
2	人間存在の個別的原理と普遍的原理
3	主体(1)
4	主体(2)
5	主体(3)
6	共同体(1)
7	共同体(2)
8	規範(1)
9	規範(2)
10	規範(3)
11	価値(1)
12	価値(2)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	価値(3)
2	道徳意識(1)
3	道徳意識(2)
4	徳と義務
5	行為
6	自由(1)
7	自由(2)
8	愛
9	生と死
10	現代社会の倫理的諸問題(1)
11	現代社会の倫理的諸問題(2)
12	現代社会の倫理的諸問題(3)
備考	

科目名	宗教学概論	担当者名	鈴木康治
-----	-------	------	------

講義の目標	宗教とは何かから始めて、宗教に関わる諸知識を整理し、東西の宗教に関わる。		
講義概要	講義予定参照のこと。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	一応、岸本英史ヨーロッパ『宗教学』（大明堂）を参照。但し、その考え方に全面的に賛同する訳ではない。	
評価方法	テスト。但し、あらかじめ問題提示もありうる。		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	概要の説明
2	宗教とは何か I
3	同上 II
4	宗教学の問題 I
5	同上 II
6	日本の宗教事情 I
7	同上 II
8	年中行事 I
9	同上 II
10	儀礼の問題 I
11	同上 II
12	同上 III
備考	

後期

週	主要テーマ
1	前期のまとめ
2	祭りの事例 I
3	同上 II
4	同上 III
5	祭りと現代 I
6	同上 II
7	宗教集団の問題 I
8	同上 II
9	タブーと戒律
10	修行 I
11	同上 II
12	宗教の規定
備考	

科目名	図書館通論（後）	担当者名	稲村徹元
-----	----------	------	------

講義の目標	第1週の授業時に説明します。		
講義概要			
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	図書館資料論	担当者名	根本 彰
-----	--------	------	------

講義の目標	この講義のテーマは、コレクション形成 (collection development) である。これは、図書館を構成する主たる要素の一つである、資料コレクションをどうつくっていくかを論ずるものである。受講者は、講義によって各種の特性を知るとともに、図書館においてそれらをどのように評価し、収集しているかについての基礎的な知識を得ることができる。		
講義概要	図書館を運営するためにもっとも基本的な経営資源であるコレクションについての理解をめざす。図書館経営の視点から論ずるので、まず図書館そのものの目的や設置理念についての考えをまとめ、資料収集方針、資料選択論、コレクション管理、コレクション評価、資料保存までのプロセスについて概観する。パッケージ化された電子メディアやネットワーク情報資源についても触れる予定である。		
使用教材	テキスト	使用せず	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・三浦逸雄・根本彰『コレクションの形成と管理』雄山閣 1993 ・その他、授業中に指示。 	
評価方法	学期末試験		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション、講義の進め方
2	資料の生産と流通(1) 出版流通と図書館
3	資料の生産と流通(2) 政府刊行物と灰色文献
4	資料の生産と流通(3) 映像／音声系資料
5	資料の生産と流通(4) 電子メディアとネットワーク情報資源
6	公共図書館のコレクション形成(1) 公共図書館とは何か
7	公共図書館のコレクション形成(2) 資料選択論
8	公共図書館のコレクション形成(3) 日米の図書館の相違
9	公共図書館のコレクション形成(4) 収集方針の意義
10	大学図書館のコレクション形成
11	コレクションの評価と管理
12	不要資料選択とコレクションの保存
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	参考調査論	担当者名	稲村徹元
-----	-------	------	------

講義の目標	第1週の授業時に説明します。	
講義概要		
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備 考	

科目名	資料目録法	担当者名	松山 巖
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>図書館がもつ様々な資料を検索しやすくするために、資料の組織化と呼ばれる作業が必要となります。本講ではそのうち目録作成について、基本的知識や考え方を学びます。図書館の目録は従来からカードが多く用いられていましたが、今日ではコンピュータ目録が普及しています。しかし、コンピュータで目録を作れるようになるのが目標のではなく、目録の基本的概念を体得することが目標と考えます。コンピュータ目録作業をも視野に入れつつ、カード目録作成の演習を行う中で、目録作成の基本的手法を習得していくことになります。</p>	
講義概要	<p>図書館における目録作成について、目録の歴史と目録規則の歴史を概観する。和書・洋書について日本目録規則に従った書誌記述の方法を説明し、これをふまえて実際に目録作業の演習を行う。従来の目録とコンピュータ目録との共通点、相違点について考察する。OPAC、書誌ユーティリティなど目録業務をとりまく各種の仕組みや、利用者の視点も交えたオンライン目録について検討する。</p>	
使用教材	テキスト	<p>特になし。随時プリント使用。</p>
	参考文献	<p>『日本目録規則1987年版 改訂版』（日本図書館協会）……学校に常備してあります。意欲ある方は購入されるのもよいでしょう。 他は授業時に紹介します。</p>
評価方法	<p>前期のレポート（1回）、後期試験、授業への参加度を総合して決定します。</p>	
受講者に対する要望など	<p>大学の図書館、地元の公共図書館などで目録を用いて検索した経験があることが望ましいので、なるべく実際に使ってみておいて下さい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 授業の進め方、参考文献の紹介など
2	資料目録法とは（図書館業務における資料の組織化および目録作業について） 目録とは 基本的な用語の説明
3	目録の歴史(1) メディアの進化と目録形成の進化（冊子体、カード、COM、オンライン目録等）
4	目録の歴史(2) MARCの概要
5	図書の書誌的構成 書誌記述に必要な分析
6	目録規則とは 概要 歴史 NCR（日本目録規則） AACR II（英米目録規則）
7	書誌記述の方法（NCR 87年版改訂版）(1) 記述総論 書誌階層
8	書誌記述の方法(2) タイトルと責任表示に関する事項(I)
9	書誌記述の方法(3) タイトルと責任表示に関する事項(II)
10	書誌記述の方法(4) 版・出版・形態・シリーズに関する事項
11	書誌記述の方法(5) まとめ
12	前期のまとめ 質疑応答
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	目録演習(1)
2	目録演習(2)
3	目録演習(3)
4	目録演習(4)
5	アクセスポイント(1) 標目と排列
6	アクセスポイント(2) 統一標目と典拠コントロール
7	アクセスポイント(3) 標目指示、インデックスファイル
8	目録の機械化と標準化に伴う諸問題
9	書誌ユーティリティ(1) 概要 共同目録作業 学術情報センター
10	書誌ユーティリティ(2) 海外の書誌ユーティリティ (OCLC, UTLAS, WLN, RLIN)
11	オンライン目録の現状と課題
12	授業のまとめ 図書館における目録作成者の要件について
備考	

科目名	資料分類法	担当者名	緑川信之
-----	-------	------	------

講義の目標	分類の基本的な考え方を理解するとともに、具体的な文献分類の体系、使用法について学ぶ。		
講義概要	前半は分類の一般理論、すなわち、分類の基本的概念、区分・体系化・位置づけ・検索の各段階、そして自動分類について説明する。また、日本十進分類法を用いて実際の図書分類の作業を行い、分類理論の理解を深める。後半は主要な文献分類法について説明する。最後に件名標目表についてふれる。		
使用教材	テキスト	緑川信之『本を分類する』勁草書房	
	参考文献		
評価方法	期末試験による。ただし、授業中に小テストまたはレポートを課すこともある。		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	概説。分類の定義、意義、種類、段階について。
2	区分。区分の原則（相互排他性、包括性）について
3	体系化(1)。構造、配列について。
4	体系化(2)。表示、記号について。
5	体系化(3)。索引について。
6	位置づけ。分類体系上への位置づけについて。
7	検索。分類体系からの取り出しについて。
8	自動分類(1)。自動分類のための統計手法について。
9	自動分類(2)。自動分類の具体例について。
10	日本十進分類法(1)。日本十進分類法を用いて演習を行う。
11	日本十進分類法(2)。 同 上
12	日本十進分類法(3)。 同 上
備考	

後期

週	主要テーマ
1	デューイ十進分類法(1)。構造、配列について。
2	デューイ十進分類法(2)。表示について。
3	デューイ十進分類法(3)。記号、索引、歴史について。
4	アメリカ議会図書館分類法(1)。構造、配列、表示について。
5	アメリカ議会図書館分類法(2)。記号、索引、歴史について。
6	コロン分類法(1)。構造、配列、表示について。
7	コロン分類法(2)。記号、索引、歴史について。
8	国際十進分類法。構造、配列、表示について。
9	日本十進分類法(4)。体系について。
10	文献分類法の特徴。
11	主題分析。主題分析の基本的考え方、件名標目表、シソーラスについて。
12	基本件名標目表。使い方について。
備考	

科目名	図書館活動論（前）	担当者名	宮部 頼子
-----	-----------	------	-------

講義の目標	<p>図書館はサービスを目的としたひとつの組織であり、その活動には大きく、①利用者サービス、②それを支援するための収集・書誌コントロールなどのテクニカル・サービス、③サービス全体を維持・発展させるための経営管理機能、の三つの面がある。今回はこのうち主に①③に焦点をあて、サービス機関としての図書館の特徴を理解する。</p>		
講義概要	<p>組織経営、特に図書館のような非営利組織の経営の特性を概観した後、前半は利用者サービス、後半は経営管理機能についてふれる。別の言い方をすれば、サービスを受ける側と提供する側の両面から図書館の経営機能にアプローチする。教科書的概説は避け、論争点をとりあげることによって諸テーマの内容とその意味を理解することに留意する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>今まど子、中村初雄編著『図書館学基礎資料』樹村房</p>	
	参考文献	<p>授業において適宜紹介。</p>	
評価方法	<p>レポート、出席および授業参加度を総合的に判断して評価を行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>一方的な講義ではなく、双方向のコミュニケーションを図りたいので、受講者への授業中の質問等にも積極的に答えてほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業方針、スケジュール、テキストの説明。「図書館とは何か」についての意見交換。
2	図書館サービスを支える基本的理念に関して各種資料を検討。
3	資料提供サービス：閲覧 vs. 貸出。
4	情報提供サービス：無料 vs. 有料。
5	情報資源とサービス：アクセス vs 所蔵、時間と空間（場所）。
6	対象者別サービス：児童、高齢者、障害者、外国人、入院患者、囚人など。
7	新しいサービスを考える：レポートを基に討論形式で行う。
8	利用者教育と利用者ガイダンス：経営機能か、サービスか。
9	PR：その意義と方法、図書館員の役割と組織のあり方。
10	これ迄の授業を通して各自が関心を持ったテーマを中心に、グループ単位で発表を行う。
11	これ迄の授業を通して各自が関心を持ったテーマを中心に、グループ単位で発表を行う。
12	授業のまとめ。最後に「図書館とは何か」について再度意見交換。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	青少年の読書と資料（後）	担当者名	宮部 頼子
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>児童青少年の読書の問題を、青少年の発達段階と資料の関係、資料の種類と特性、資料の選択と評価、地域社会との関わりなど様々な側面から検討し、理解を深めることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>児童青少年の読書の問題を、青少年の発達段階と資料の関係、資料の種類と特性、資料の選択と評価、地域社会との関わりなど様々な側面から検討していく。近隣の図書館の児童室を見学し、児童図書館員によるフロアワーク（お話し、読み聞かせ等）を観賞し、授業においてもブックトークの実習を行う。</p> <p>また、表現の自由と差別問題、図書館と知的自由の問題などを様々な角度から具体例をもとに検討していく。</p>		
使用教材	テキスト	なし。（随時、配布資料使用）	
	参考文献	授業時に紹介。	
評価方法	レポート、出席および授業参加度を総合的に判断して評価を行う。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備 考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション授業：授業方針の説明、評価方法の説明などを行う。
2	児童青少年と読書に関して、各自のこれまでの読書習慣および図書館との関わりをふり返りながら、青少年サービスとは何かを考える。配布資料参照。
3	ヤングアダルトサービスに関する調査報告書をもとに、検討を行う。児童青少年の読書興味について、その発達段階を年齢別資料の特性を参考にしながら検討する。配布資料参照。
4	児童青少年資料の種類と特性について考える。ヤングアダルトサービスとマンガの扱い方についても検討を加える。各自の最寄公共図書館におけるマンガの扱いについて調査を行い、レポートにまとめる。
5	児童青少年の読書と地域社会について、児童図書館員の活動に焦点を当てて考える。配布資料参照。
6	近隣の公共図書館児童室を見学し、児童図書館員によるお話、読み聞かせ等を観賞する。見学レポートをまとめて提出する。
7	児童青少年の読書活動とその指導に関して、グループ作業によるブックトークを実際に行って学んでみる。ブックトークに関するビデオ観賞および配布資料により理解を深める。
8	各グループ毎に、ブックトークを行う対象年齢およびテーマを決定し、全体構成、ブックリスト作成などの準備作業を行う。
9	ブックトークのグループ発表（前半グループ）を行う、相互評価および全体討議を行う。
10	ブックトークの発表（後半グループ）を行う。相互評価および全体討議を行う。
11	児童青少年の読書と資料の評価の例として、「ちびくろサンボ」をとり上げる。各版の読み比べを行い、グループディスカッションを通して、様々な角度から検討を加える。配布資料参照。各自の考えをレポートにまとめる。
12	全体のまとめを行う。ビデオで米国の公共図書館における児童サービスの模様を観賞し、理解を深める。
備 考	

科目名	図書及び図書館史（前）	担当者名	根本 彰
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>本や図書館の歴史は文明の歴史とともに古代にまでさかのぼる。本のようなメディアは、空間を超えて情報を伝えるとともに時間を超える性質をもつが、その際に図書館という機関を媒介にすることによってその性質を確実なものにすることができる。この講義は、最近話題の情報通信技術がこの性質を拡張することによって出現する「電子図書館」に関する議論を、そもそもの本や図書館と対比することによって検討しようというものである。最新の技術をめぐる状況が図書館や情報の役割に関する歴史的な意義を再考するきっかけとなったという視点から、「図書及び図書館史」について考えてみよう。</p>		
講義概要	<p>本講義は図書および図書館の通史を講ずるのではなく、近代におけるメディアやテクノロジーの変遷とそれに対応した近代図書館という制度の社会的意義を中心に論ずるものである。順序としては、まず、最近のインターネットやCD-ROMといった新しいメディアの特性と電子図書館プロジェクトの概要を伝統的なメディアや図書館との対比において述べる。その次に、電子図書館の構想を20世紀初頭にまでさかのぼって顧みる。続いて、近代の図書館サービスがどのような社会的特性をもっているのかを、とくに図書館建築とレファレンスサービスを例にとって概観しておく。最後に、現代の図書館運営を社会学や政治学の方法で分析する。</p>		
使用教材	テキスト	W・バーゾール『電子図書館の神話』勁草書房 1996	
	参考文献	講義のときに必要に応じて紹介	
評価方法	学期末試験		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション。講義の進め方
2	伝統的メディアと新しいメディアの出現
3	伝統的図書館と電子図書館の構想
4	図書館の神話とは何か——大都市中央館論争を中心に
5	電子図書館神話の出現——マイクロ写真術から図書館の機械化まで
6	情報社会論と電子図書館——マハルプ、ダニエル・ベル、マクルーハン、トフラー
7	図書館のシンボリズムと身体性——感覚的な図書館像、図書館建築
8	セラピストとしての図書館員——人間志向的サービス専門職について
9	レファレンスサービスの2類型——情報提供 vs 教育
10	官僚制としての図書館
11	図書館の政治学——個人主義、コミュニティ、自由主義
12	まとめ——図書および図書館の歴史的意義
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	視聴覚教育	担当者名	町田喜義
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>我々のコミュニケーション状況は大きく変化して来ている。それに伴い教育もまた激動期を迎えている。本コースは、「いま、教育は！」をテーマに、コミュニケーション、教育、そしてメディアとの関わりの中で視聴覚教育の課題を理解すると共に今後の展望を得ることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>視聴覚教育入門講座として、以下のような内容を取り上げる。</p> <p>視聴覚教育とは一歴史的変遷・意味、教育とコミュニケーション、言語偏重主義、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション、視聴覚教育研究—特性・処遇・課題相互作用、記号と意味、画像の豊かさ、コンピュータ・リテラシー、ニューメディア、博物館と視聴覚教育（調査）、教材の作成、グループ研究、その他。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ・プリント・その他を使用する。 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ハヤカワ、S. I. (大久保忠利訳)『思考と行動における言語』岩波書店 1956 ・デール、E. (西本三十二訳)『デールの視聴覚教育』日本放送教育協会 1960 ・矢田光治編『ハイパーメディア』日刊工業新聞社 1990 ・NHK 生涯教育メディア研究会編『ニューメディアは教育を変えるか』啓学出版 1988 ・坂元昂『教育工学』日本放送出版協会 1991 ・大内茂男・高桑康雄・中野照海編『視聴覚教育の理論と研究』日本放送教育協会 1979 ・野津良夫編『視聴覚教育の新しい展開 [第二版]』東信堂 1995 	
評価方法	<p>出席点：25%</p> <p>レポート：前期 (30%) 後期 (30%)</p> <p>製作発表：15%</p>		
受講者に対する要望など	<p>教務課免許課程係が主催する OHP 教材作成構習会への参加を義務づける。</p> <p>上記内容は受講生数・進捗などにより変更の可能性がある。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	プロローグ：授業計画の説明、参考文献の紹介と利用方法、評価方法の説明、班編成など
2	講義：視聴覚教育とは(1)その変遷と課題
3	解説：「デールの経験の円錐」抄訳(1)
4	解説：「デールの経験の円錐」抄訳(2)
5	講義：視聴覚教育とは(2)教育コミュニケーションの視点
6	講義：「コミュニケーション」とは
7	討義：教育とコミュニケーション
8	ゲーム：画像と言語の機能の相違について
9	ゲーム：BBIP
10	講義：視聴覚教育研究の展開—メディアの特性と特性・処遇・課題交互作用
11	博物館調査：視聴覚教育の理論と実際(1)
12	発表・討議：博物館と視聴覚教育
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義：授業過程における視聴覚メディアの選択
2	ビデオ：ハイパーメディアについて：1 ハイパーメディアとは 2 メディアで教育が可能か
3	講義：映像リテラシーをめぐる問題
4	講義：言語と非言語をめぐる(1)
5	講義：言語と非言語をめぐる(2)
6	解説：コンピュータ・リテラシーをめぐる
7	講義：コンピュータ・リテラシーの教育内容
8	実践：ニューメディアの教育利用
9	講義：視聴覚メディア開発の論理
10	実践：教材作成・発表(1)
11	実践：教材作成・発表(2)
12	エピローグ：視聴覚教育の理論と実際
備考	

科目名	学校図書館通論（集中授業）	担当者名	宮部 頼子
-----	---------------	------	-------

講義の目標	<p>わが国の学校図書館の現状を概観し、その諸活動に関する理解を深めるとともに、そこで見出された問題点を検討し、考えを深めることを目的とする。</p> <p>特に、学校図書館と教科授業との関係に焦点を合わせ、実際に学校図書館の見学も行う。</p>	
講義概要	<p>わが国の学校図書館の現状を概観し、その諸活動に関する理解を深めるとともに、そこから浮かび上がってくる様々な問題点を検討する。学校図書館の設置と活動状況、経費、資料、社会的基盤、学校図書館法、司書教諭、学校司書、メディアセンターとしての学校図書館等について検討する。あわせて、近隣の学校図書館を見学し、より理解を深める。又ビデオ教材をもとにディスカッションを行い、各自の考えを発表する機会を設ける予定である。</p>	
使用教材	テキスト	なし。（随時、配布資料使用）
	参考文献	授業時に紹介。
評価方法	<p>見学レポート（2ヶ所）、提出課題、出席および授業への参加度を総合して評価を行う。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	学校図書館の設置状況、活動状況、経費、資料などの点について、最近の資料を参照しながら検討を行い、学校図書館の現状に関する基礎的理解を深める。
2	学校図書館の社会的基盤について、学校図書館法とその改正問題、社会と学校図書館などに焦点を当てて考える。午後からは、近隣の小学校図書室の見学を行う。
3	学校図書館員の問題をとりあげ、司書教諭とは何か、学校司書の存在、学校図書館員の職務などについて考える。午後からは近隣の中学校図書室の見学を行う。
4	見学のまとめを行ったのち、メディアセンターとしての学校図書館をとり上げる。学校図書館に関するビデオを鑑賞し、それを比較検討し、評価分析も試みる。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	学校図書館の利用指導（集中授業）	担当者名	宮部 頼子
-----	------------------	------	-------

講義の目標	<p>学校教育の課題のひとつである「学び方を学ぶ」に関して、学校図書館におけるその指導方法を習得することを目的とする。</p> <p>各種の事例を比較検討しながら指導案策定も試みる。</p>		
講義概要	<p>学校教育の課題のひとつである「学び方を学ぶ」に関して、学校図書館におけるその指導方法を様々な角度から検討し、習得する。学校図書館見学およびビデオ教材を通して、現場における様々な問題を理解し、それらを踏まえた上でグループ作業により利用指導計画案策定を試みる。ビデオ観賞をもとに、少人数クラスの利点を生かしたディスカッション形式の授業展開も組み入れる予定である。</p>		
使用教材	テキスト	なし。（随時、配布資料を使用）	
	参考文献	授業時に紹介。	
評価方法	<p>見学レポート、提出課題、出席および授業への参加度などを総合して評価を行う。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	学校図書館の利用指導の基礎的理解のために、利用指導の実施状況、実施内容、読書指導と利用指導の内容などについて配布資料をもとに検討する。
2	利用指導の体系理解のために各種資料を用いて検討する。ビデオ観賞により利用指導の具体例を学び、それらの評価分析も行う。
3	モデル校見学授業
4	これ迄に学んだことを基にして、利用指導の実際についての各自の考えをまとめる。更にグループ作業により、実際に利用指導計画案の策定を行い、相互評価を行う。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	